

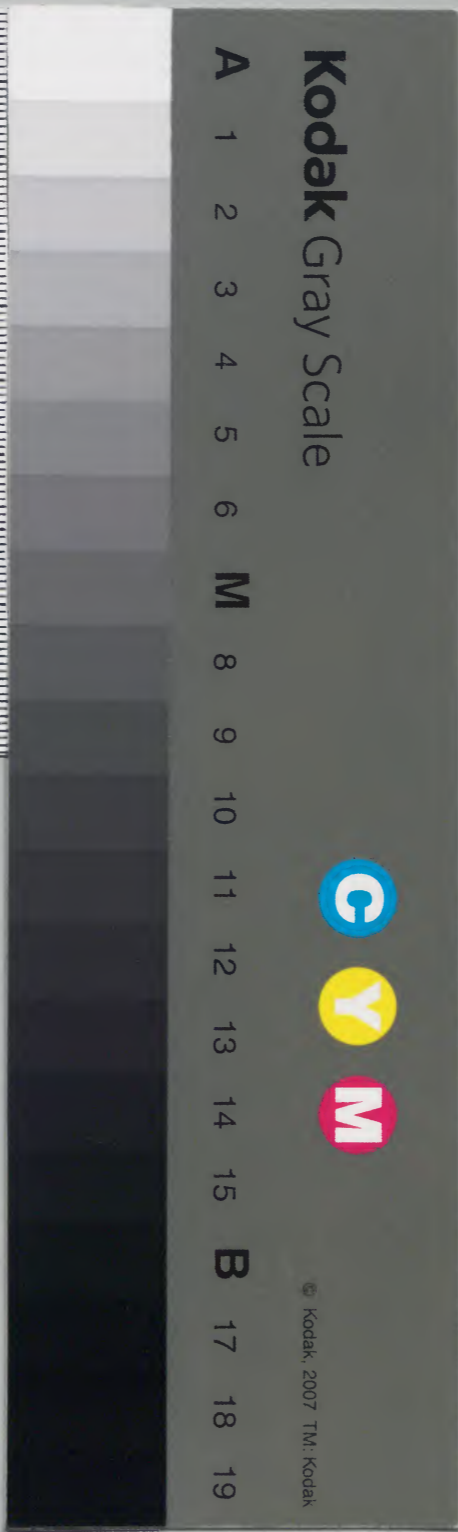
新撰美濃志

三

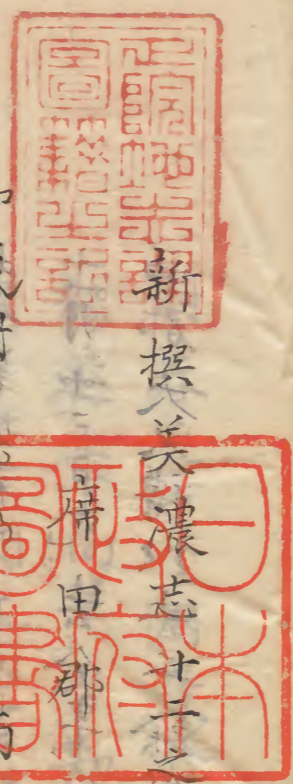
和書門類		
二九一六三號	二〇函	二架
七册		

內閣文庫		
二九一六三號	二〇函	二架
七册		
(三本)		

內閣文庫		
番號	和	29163
冊數	5 (3)	
函號	174	181



席田 方縣 厚見



加茂村の御旗本領四百三十四石九斗七升七合

賀茂明神社の美濃神名記に席田郡正六位下

加茂明神社の御旗本領四百三十四石九斗七升七合

芝原村の御旗本領四百三十四石九斗七升七合

芝原村の御旗本領四百三十四石九斗七升七合

美濃神名記に席田郡正六位下柴原明神と云ふ社あり

正一位天満天神と云ふ神あり

牛頭天王社の南の北方の町にあり

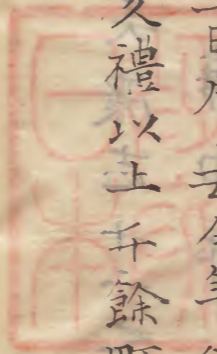
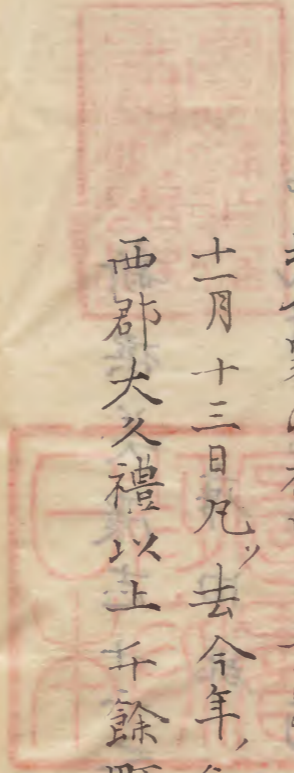
佛生寺村の加茂芝原の間より御旗本領八百八十九石六斗

石原村の佛生寺の北より御旗本領六百七十二石二斗

春二升法應寺村の石原のより

席田

春近村ハ芝原の北なり。吾妻鏡の文治二年六月九日の条に
美濃国事、在廳申状等行沙汰先了子細追可被仰也云々
新王春近并郡戸庄年貢事早無懈怠可進濟之由可被下
知也云々と見ゆ。春近ハ御旗本領四百七十一
石四斗四升八合。国恩寺ハ真言宗。往古国分寺。国分
尼寺。乃ハ其の後世轉して今の寺号とあり。此のふらさう
三代實録に仁和三年六月五日丁未美濃国同止言。国分寺災梵
宇佛殿一時成煨燼。席田郡定額尼寺殿堂宏麗令修御願請為
国分寺許之。とあり。不破郡の国府那ハ国分寺の焼亡せし
當郡乃定額尼寺也。国分寺とあり也。春近兵衛尉ハ鎌倉
北条家の被官の士にして。吾妻鏡に寛喜四年
十月十三日凡去今年飢饉武州被廻撫民術之餘美濃国高城
西郡大久禮以上千餘町之乃貢被俾進濟之儀遣平出左門
出



尉春近右兵衛尉等於當國於株河驛被施于往及浪人等於尋
縁邊上下向輩者勤行程日数子旅糧至稱可止在由之族者預
置于此庄園之間百姓被扶之云々。此の條は美濃神名記に席田郡正一位天満天
北野村ハ春近の杖郷なり。美濃神名記に席田郡正一位天満天
神ハ此の條にあり。今神社のなり。や。とあり。重
て聞訂す。同領三百九十八石七升八合。春近ハ美濃
郡府村ハ春近の北なり。此郡の正郷なり。郡は建
し。郡司もここに居り。国造あり。住居し。郡府ハ名
つ。續日本紀に靈龜元年秋七月丙午尾張国
人外従八位上席田君迹近及新羅人七十四家貫于美濃国
始建。席田郡焉。同紀に天平寶字二年十月丁卯美
濃国席田郡大領外正七位上子人中衛無俟吾志等言。子人等
六世祖父乎留和斯知。流布の印行本乎とす。自賀羅国墓

化末朝當時未練風俗不著姓字望隨國号蒙賜姓賀羅造
と云々日本後紀に弘仁五年八月丙寅化末新羅人加羅布古伊
等六人配美濃国と云々。席田君加羅造と云々。貫一人
りたわらし。○国造真祖父ハ続日本後紀に承和七年四月
戊辰大政官奏去承和五年十月二日美濃国言官惠那郡無
任使郡司暗拙是以大井驛家又馬共疲官倉顛仆因茲坂本
驛子悉逃諸使擁塞国司遣席田郡人国造真祖父令加教
諭於是逃民更飯連蹤不絶遂率妻子有本土夫見善不廢何以
責成望請停史生一員特置驛史預干把笏令得威勢至得其
人爲終身任其公辭者給史生料勅減省其具頗非穩便
史生數猶復舊例其祖父一身特聽任用從此而後不得更補
其俸料者折公廩給史生半公事力公廩由不在給限
以云々。○国造田の事ハ政事要畧に延喜十四年大政官符

民部省国造田美濃国廿四町と云々。結日本紀に神護景雲二
国造雄萬云授外從六位下以貢獻也。宝龜元年四月癸巳朔美濃
国方縣郡少領外從六位下国造雄萬獻私福二萬束於国分寺授
外從五位下。○隣郡乃少領を兼給一人。同
領五百九十六石三斗九合。○智勝院ハ北の山。采山ハ大
慈山と号し曹洞宗の正保のころ松平丹波守光重祖母智
勝院殿菩提乃為林建立其代之の墓を築けり。智勝院ハ松
平丹波守康長の室女久松佐渡守勝俊のひより。京照官
の異父同母の姉妹なり。○三橋村ハ加茂の北にあり。同領七百十四石六斗。福田地村ハ三橋の
印行の国圖に福田寺とあり。三代實録に元慶元年四月十日庚
寅卜定悠紀美濃国席田郡主基備中国都守郡並卜食とあり。又
た大嘗會修行の地あり。○福田地政呼ひ。やう村名と
あり。○美濃神名記に席田郡正六位下春稻明神

川記にむら田とむら田なる波やしの川の名を
永正後柏原院御宇 後水尾院勅点集に日野弘實晴西
の席田川のむら田なりや後ら鶴の毛衣とむら田又
古本催馬樂に年之呂太乃也 年之呂太乃 伊津奴支加波亦也
須年津留乃 伊津奴支加波亦也 須年都留乃 須年津留乃
也 須年津留乃 知止世乎 加祢天曾 安曾比 安戸留 知止世乎
加祢天曾 安曾比 安戸留 原本落字 誤字の體源抄 梁塵愚 (と)
たへり 此哥夫木抄にのせく 題し 人あはれしむら田のい
つぬま川にむら田なる波とせしめてしむら田なりと
むら田なる波とせしめてしむら田なりと 體源抄 梁塵愚 案抄 河海抄等
にのせしむら田なる波とせしめてしむら田なりと 體源抄 梁塵愚 案抄 河海抄等
多乃久良也 波良河 尔奴留与 波名久 天於也 左久留都末段 於
也 左久留川末波末之天留波之しむら田なる波也 波支乃伊

知尔久川加比尔加年段 久川加波々 千加伊乃保曾之支乎可
戸左之波支 天宇波毛と 利支天美也 知加與波年々 久不
るの哥の題ハ 席田のりりの貫川と 志るを 堪叢抄の
奥書に 于時文安三年丙寅五月廿五日終書功畢 觀勝寺金剛
佛子行譽 文明彙集著 雍陶 茂仲 呂十有七 日奈貫 河西 德納
釋常昭 志るに 春近村の 国恩寺に 住僧 今定り
上之保村ハ 郡の西北のりり 御旗本 大島氏 千百
十三石八斗 大島氏の 茅宅村のりり 船木山ハ 村の東の
方にりり 南ハ 郡府村の 桑山ハ 西北ハ 本巢郡 文珠村 東
ハ 方縣郡 西郷村にりり 和名類聚抄に 本巢郡 船木と志る
てりり 郷名りり 今ハ 祭りて 只庄名と 北山の名に
のりり 後拾遺集にりり 後らりり 今上

この舊地ありこり井戸十郎陸奥の出 築き居候
より伊賀伊賀守守就入道道足の子安藤伊賀守
尚就の居城あり信長公の勘氣と蒙り武儀郡の谷口
村に退き安藤氏系圖名細記古城の條等にもあり
寺田村ハ河度の北あり同領九百三十石三斗二升 季瓊日祿に長
祿三己卯九月廿四日建仁寺禅居菴濃州寺田郷半濟之事三曾
院末寺濃州祥勝院領守護半濟之事あり當村の
小島村ハ寺田の東北にあり同領七十四石二斗 小島五郎重平ハ分
系譜に浦野兵庫允重遠の孫小嶋五郎重平とありその人
ありその子小島二郎重俊のハ各務郡岩竜村の余にあり
一日市場村ハ寺田の北あり土岐郡に同名の村あり三月
毎の朔日十日廿一日あり市あり四日市場五日市場
七日市場あり里名の諸国に多し例あり同領百

六拾七石四斗三升 木田土重曾我 曾我屋村ハ一日市場の北にあり元和葛振平曾我部討あり
分脈系圖に利仁將軍の裔孫坂野判官藤原則明の子妙見
堂別當能秀住美濃蘆合郷あり其子あり其子あり其子あり
夕部曾我部蘆合郷 同領千二百四十三石九
升夕部池ハ北方村圓鏡寺の東あり彼寺ハ什宝紺紙金泥
の天般若經ハ寛喜三年庚寅七月曾我部莊夕部池あり其
未負うく出現せり經あり其時墨俣州の村あり曾我部
島の浮出あり 古城跡ハ曾我部内藏あり
氏名細記にあり又土岐系圖に池田刑部少輔益忠の子曾我
部六郎頼久民太輔 其子治ア少輔益世文安元年七月十日 其子
所民部少輔益豊伊豆守法 其子民ア少輔頼豊播磨守法 其子
入此城人此子の武士あり

又丸村ハ曾我屋の北にあり 同領三百八十七石八斗六升

河部村ハ又丸の東にあり 和名類聚抄に厚見郡河邊とあり

此地其郡へあり 同領二百八十七石七斗九升

尻毛村ハ河部の東南にあり 陸奥岩城平 安藤 領五百一十一石一斗七升

上尻毛村ハ尻毛の南にあり 同領二百八十七石七斗九升

木田村ハ尻毛の北東にあり 同領千九百九石八斗七升 西木田村 柿ヶ瀬村ハ

木田の南にあり 木田三郎重長ハ分取系圖に源満政の裔孫佐渡守

重宗の二男木田三郎重長住美濃国東有武郷にあり 宗持の父ハ

有武ハ則武の轉にあり 其の隣郷ハ源平盛衰記に

木田三郎重長美濃国の人あり 其の長男木田判官代

重国ハ同系圖に承久に京方於美濃国大豆渡被誅高松院判官

代木田家紋片蓮にあり 又重国の子木田又次郎重知の子

開田木田三郎国用ハ重国の弟木田上座重賢の子木田太郎

重季同太郎二郎重兼等ハ同系譜にあり 開田ハ家の別苗ニ

近き改田村其地ハ一 宝生院古文書六通のハ美濃国重次

郷住人宣包申為誠田ハ地頭不紀返借錢由事 訃状如此子細見状

早々の明ハ文永二年九月八日 散位 左近将監 地頭及

則武村ハ木田の東にあり 康正二年造内裡段錢 并国役引付に

伊勢因幡入道殿濃州則武郷段錢にあり 同領四百六十八石

五斗九升 則武新田村ハ則武の南にあり 同領二百五十二石

正木村ハ則武の北にあり 尾張御領加納領ハ七百五十二石一斗八升

五合名古屋ハ十里にあり 西正木村 南正木村ハ正木の南にあり

東正木村ハ三郷にあり 白山権現社ハ村にあり 貴船

社ハ天白社等ハ村にあり 今ハ廢にあり 心洞寺ハ大白山にあり

臨濟宗京都妙心寺の末寺ハ盤柱和尚の開基にあり 名

細記にあり 影現寺ハ浄土真宗西派岐阜の願誓寺ハ末

寺に○日根野氏宅跡八日祢野左京亮の子織部正と云に

笠松

折立村八正木の西にありて鷓鴣庄と云鷓鴣は此にありて九郷あり

て折立は其の本郷なり和名類聚抄に方縣郡鷓鴣と云

諸国に鷓鴣のりゆるとい侍中群要に諸国進鷓鴣名鷓鴣と云

セリ尾張御領九百七石九斗五升六合今八減して四百十三石一斗二

升と云れ名古屋へ十里あり枝村一所ありて三股と云○五霊

宮村にありて石神社藏王祠稻荷祠神明祠天

皇手祠村民祀と云濃陽志畧に云たり○超勝寺は浄土

宗鎮西派廣大山と号り京極智恩寺の末寺なり

黒野村八折立の西にありて鷓鴣郷九ヶ村の一所なり岩城平領

七百九十一石三斗二升○光順寺は浄土真宗西本願寺の懸所

ありて獨下五十余ヶ寺あり○古城趾は加藤遠江守光泰の子

加藤左工門尉貞泰始名作十郎

領知と減せり文祿年中甲斐国谷村の城あり當城より

四万石と領す慶長十五年伯耆の米子の城にありて六万石

を賜ふ元和三年伊豫国大洲の城にありて左近大夫と改り同

九年五月廿三日平法号大峯院英寒玄雄居士のりていハ秀吉ム

下鷓鴣村は黒野の西にありて鷓鴣のりて岩城平領四百二十石五斗五

升外に村山家若の跡土岐の一族村山氏に陣城ありて

中世道三入道と云みりて

東改田村は下鷓鴣の西にありて元和の高帳にハ皆田村と云りて

下ハ和名類聚抄の厚見郡皆太と云りて

加納領岩城平領と云五百六十八石二斗七升九合

西改田村は東改田の西にありて元和の高帳にハ皆田と云りて東西

寺悟溪派形、土岐美濃守成頼の先祖より河守の正法寺靈葉山の
且那りり、関山派帰依のりり、寛正六年七月別に此村小當寺
と建立して、匡王山正法寺と名づけ、妙心寺街梅院の雪江深和尚
関山より、天文十年の以齋藤道三が兵乱に焼亡し、
再建し、又永祿五年の兵火に焼亡し、慶長年中黒野城
主加藤左エ門尉貞泰廢寺跡に、古義の寺と建立し、五
光山正法寺と名づく、今の寺是なり、蓮華院蓮華院の寺に
前、後成恩寺兼良公の灵廟ありて、関白社関白社の郡止の城主
東常和の種王庵宗祇長享の兼良公の廟と拜せ
和歌常和の家集にのち、又長祿の西三條内大臣實隆
公道遙院正法寺に來り、和歌の宴會と行り、
古市場村、小野の東に、鶴飼加納領六百九十石八斗
五升八合、往古此所市場に、少川市と、今、市立

か、村名の残り、少川市の事、日本靈異記に、聖武天皇御
世三野国片縣郡少川市、有一刀女為、大也名為三野狐是昔
國狐為母生人刀強當百人、住少川市内、持己刀凌弊於往還
商人而取其物、為業時、尾張國愛知郡片輪里有刀女為、
少也是昔有元與寺道其聞三野狐凌弊於人物而取、念試之
蛤捕五十斛、載泊彼市也、亦儲備、副納熊葛練鞭廿段、
時狐來、彼蛤皆取、念賣然、問之言、自何來、女蛤主不答、亦
問不答、重問、遍問乃答、之言、未方不知、狐念无礼、打起、依
即、手待捉熊葛鞭、以遍打、着肉、狐怕之、
言服也、犯也、惶也、於是、知益於狐之功也、蛤主、女言、自今
已後、在此市、不得若強、往者、終打斃也、狐听打斃、不住、
其市、不奪人物、彼市、人惣皆悦、安穩、夫刀人、受繼、世
不絶、誠知先世殖、大力、同合得、此刀、矣、

上西郷村ハ御望の西にあり御旗本領二千四百九十六石九斗七合

中西郷村ハ河弥陀寺村廣海道村犬塚村明音寺村ハ上

西郷のち土岐系因に左京大夫頼益の第。西郷上総ハ頼音

方縣郡西郷に住其子西郷二郎光郷の子西郷小三郎益音

則松村ハ上西郷の北にあり同千二百五十八石八斗八合山田孫四郎

重村ハの地頭あり分脈系譜に山田次郎重忠四代の孫次郎重

泰の子孫四郎重村美乃国則松郷地頭にあり

東秋澤村ハ則松の北にあり同三百七十六石九斗八升八合

雛倉村ハ東秋澤の北にあり御料五百八十八石九斗二升九合。雨池

下雛倉にあり夫婦石むら高井の石二つあり

佐野村ハ雛倉の東南の南にあり御旗本領四百二十石二斗二升九合

芦鋪村ハ佐野の南にあり御料七百五十五石五斗三升六分

岩科村ハ芦鋪の東にあり同八百十九石四升八合大岡氏宅跡村

内にあり大岡左馬助にありと領知ハ岩利にあり

彦坂村ハ岩利の南にあり御旗本領六百四十四石六斗三升

村山村ハ芦鋪の南にあり同二百五十七石八斗四合古城跡ハ土岐の

一族村山芦敷等住村山越中守色以外彦坂石谷

等も住すと名細記にあり土岐系因に左京大夫頼藝の

長男土岐宮内少輔頼秀参河守幼名猪法師母ハ佐々木定頼也織田備

後守信秀讓秀字称頼秀逆臣齋藤秀童の諛にあり父

頼藝の勤氣と蒙り當村に藝居村山宮内少輔頼家

名乗天文十一年秀龍謀叛の時兵を起して軍功あり

父の勤氣より武儀郡吉田にありと参河守と称す其子土

岐越後守光義二男土岐織部正昭頼秀の弟稻葉頼負佐頼永

稻葉一鏡 その弟 土岐掃部助榮興 の 將軍義昭につか

石谷村ハ村山の南東にあり 御料八百二十八石七斗七升四合

椿洞村ハ彦坂の南にあり 文明八年因幡社本縁起に厚見縣

椿原 榎野 同四百八十九石四斗四合

上城田寺村ハ石谷の南にあり 同六百七十二石八斗八合 美濃神名記

に方縣郡正六位上城田明神に在り 神名記

○舎衛寺ハ船田後記に旁縣郡城田山舎衛教寺とあり 一流の

旗空中に飛飄 て 南の て 尾張

乃熱田の神地 に 歸り て 地に墮 す 其の

舎衛寺 と 名 つ 多旗墮寺 と 名 つ 加藍 と 名 つ 寺の

寺号村名 と 城田寺村 と 改 め 厚見郡河手城

主土岐美濃守成頼堂宇と修造 明應五年池田郡小寺村安国

寺に て 成頼剃髮 し 法名 と 宗 と 舎衛寺 と 名 つ 徳栖寺土岐の

下執權齋藤利國の家士石丸玄蕃利光船田合戦に利と得 て

去々年近江国に て 今年明應五年五月廿九日近江より

て一族當寺に會合す成頼入道宗安ハ六月廿日院中 と 加納

上の城に て 二男元頼ハ當院に留 り 寺の四面に櫓とあり

下は防戦の支度す齋藤利國ハ軍襲 し 相戦 し 惣方火箭

と放 つ 元頼方打負 け 元頼自殺 し 利光 と 一族三十四人火と

放 り 自害 を 其 の 寺閣 に 焼失 す 厚見

郡苗部村の條 に 梅華元盡藏 に 明應

五年丙辰今茲 に 江假道 に 伊陽過尾之津島 に 竹鼻

十日曉入濃之旗墮寺 に 其 の 時 の 又此評論 の

文龜年中沙門宗澤 が 當寺 に 法華讀誦 し 記文 に

えりり。古城ハ舎衛寺の境地なり。土岐成頼入道宗安
明應五年にりり。子美濃守政房も河守の城より
にりつり。政房の弟佐良木三郎尚頼もその才土岐四郎元
頼とにり。明應五年城田にり生害をり。天正のり山内
掃部助實通山内對馬守一
豊の一族大桑より城田地の城にり。當村
も西庄村と領知してり。同八百三石一斗八合
下城田寺村ハ上城田寺の南にり。同八百三石一斗八合
上土居村ハ城田寺の南東にり。御旗本領七百十九石七斗四升五合
○土居駿河守頼継ハ土岐隱岐守光定の曾孫原弥二郎師實
の長男にり。にり。久りり。同八百三石一斗八合
下土居村ハ上土居の南にり。加納領五百十八石六斗三升
鷺山村ハ下土居の南にり。尾張御領加納領も六百十三石三斗七
升三合。名古屋より十里あり。○天神社ハ幡社白山社にり。村民

笠松

法光寺ハ淨土真宗西派今泉の願誓寺の末寺あり。
古城趾ハ村の西の山乃頂にあり。峯より西ハ正木村の地にて城
跡ハ村にり。南門の趾鷺山の地あり。世に鷺山の
城とよべり。文治のり佐竹常陸介秀義居士と名細記にり。
たり。秀義ハ分脈系國に新羅三郎義光四代孫佐竹常陸介
中隆義の子佐竹別當秀義美濃國山田郷地頭始而拜領と志
あり。又土岐頼藝國司より以前にり。天文の末齋藤道三隱居のり。此城に居り。弘治二年四月廿日戦死
す。本朝語園に美濃國に石谷とよ士あり。齊藤山城守道三と
同心して鷺山城にり。寄手春藤新九郎取と漸に落城に及り。
む。彼石谷文武ハ心掛の切り。惜し矢文を射使者と立是非
あり。城とにり。木練に成り。理り。余ハり。終に討死と人皆惜り。余ハり。終に討死と人皆惜り。

ら居と本葉郡文珠に境内と天神の社と創建なり享祿三
寅年正月十三日死去とすの夫婦の位牌當寺にありの寺
領御朱印三十石紫衣免許の戻刹あり塔頭二弁揚屋
軒といふ此寺より造立の地中古洪水に崩れて川とす
りり今この地にいつて再建なりとす
尚仁岫和尚等の大徳當寺歎らるる書畫一覽ありの
俗書にりりあり○妙徳寺の浄土真宗西本願寺末寺なり
○明嚴寺も同じ宗にりり越中国開名寺の末寺なり○齊藤
道三塚の濃陽志畧に在長良古川岸下河次岸崩今ハ
移り宗福寺中なりとす○長良川合戦ハ齊藤道三父
子の軍りり齊藤山城守秀竜の子義龍実ハ土岐頼藝
の胤子なり其母三芳といふはたけいなき美婦あり
頼藝の愛妻なり日懷妊ありり秀竜頼藝に配述

彼妻を所望りり傍に人あれりり主人多く刺
殺すなりり氣もりり則ち秀龍の妻なりり懐妊
の子秀龍の家にてりり九福子なり義竜名なりり
稻葉山の城といりり秀龍ハ鷲山に隠居りり秀竜の
實子多し生もきれハその実の子なりり惣領と立
たりり心起りり義龍と名たりり色
龍の近臣日根野備中守弘就武井肥後守助道等なりり君
全く道三と御父子にりり上ゆ実ハ頼藝君道三ハ國
を奪りりりり父の讐かりり速く御誅伐なりりり
諫りりりり義竜そのりり心得長井隼人佐道利を
りりり日根野にりり付て道三ハ實子の弟二人とりりり
せ道三ハ父子と断りり齊藤を改りり色左京大夫義竜と

名兼りるうをききハ道三大いり弘治元年義龍とくむ
とて国中の勢と催しきり元来モトヨリ不義の道三よりくるも
驚くかく鷺山ハハハハハ義龍の勢に加る物ハ多クハ
義龍の味方にて宗徒のしめハ楫斐因幡守原紀伊守船
木大学助右谷近江守明智十兵五田原式部衣斐興三石工
高山伊賀守同右近土居右京本壯民少輔遠山刑部
鷺原六郎左門曾我部内藏助池田又太郎芦敷右京山
縣三郎蜂屋兵庫頭金山二郎左門相庭掃部助八居修
理亮池田修理小里出羽守大栗二郎兵五萩原孫二郎郡
家七郎猿子主計牛牧右京外山修理今峯源八落
合掃部林主水イハ他家ハ薄トハ伊賀伊賀守氏家端
陸ハ不破河内守山内兵庫頭竹腰根津守武井肥後守
稻葉伊豫守岩田民部井戸齋助近藤新五左門齊藤

八郎左門同石見向木和守石丸主殿長井將監小鹽四郎左門
門井堀將監鷺原九郎兵五栗原右門尉跡部將監鷺見大
學深尾下野武藤冷路村宗佐美左門尉止田加賀右門筑岡
左工門石井駿河守大墳飛騨中條左近入道内藤守佑那波上野入道
久昌軒同内匠助松山刑部佐合修理林主水松市太郎左門野村越
中平井宮内羽賀五郎左門日比野下野長屋信濃下村丹後
梶原平九郎立田大藏高屋大炊助松井刑部白井加賀兼松石京
臼田宮内宮田左工門青木新左門佐藤和泉岸勘解由豊田
民部大倉右京石井遠江守林兵庫助同進親浅岡新太玉井
二郎左門国枝八郎西松景右工門後藤右京関谷兵庫
岡主馬高井加賀右工門私原源五郎奥田内記矢代左工門
堀部新左工門古田右近和田主馬輕海平左門各務右近
河合織部守我々々々馳付稻葉山の上下極充滿り形道

三方（三つ）人（た）川島掃部助（惟百）神山内記義鑑林
駿河守正通入道道慶道家助六郎定重同彦八黒田監物
堀池備中守河田隼人同新左五内藤新十郎松原三郎左
衛門奥田造酒高橋修理岩子彈正竹中遠江守牧村兵
庫改田大学同圖書大澤二郎在工門額額右京中村總助
河村圖書入道務元井上加賀右五門木田掃部箕浦市郎
兵五渡邊源内市橋庄九郎遠藤修理守屋中將（書一）安
東刑部原中務青桐縫殿大西太郎左五門多田新左衛門
中嶋石見一柳石近加藤右馬助（條一）笹田新左五門民田平左五
門長山新助真鍋外記合井修理大塚藤三郎近藤壹岐
加納兵五鶴釘外記國杖參河守毛利宮内亮赤井四郎田
村將監山内傳兵五末原十郎左五門廣瀬兵衛松浦民
部大野主水堀江掃部栗本内藏新新左五門山田九藏

早川藤治鷲見新藤治梶川弥三郎水野民部飯沼空之助
世斐修理入道三上内藏助等々秀龍入道々々小勢々々義竜
の大軍しし戦ひし必を利あり長良川と隔てて戦ひ
川島掃部神山内記林道慶道家助六郎りんとし働
けり敵し味方し同家の者もしく道三の旗大将林道慶と
義龍の旗大将林主水と伯父甥の中りし父子兄弟
意外見知りし人々敵味方も後百の嘲りや
耻しむるも余と軽んずる戦ひし道三方敗北し
引退し鷲山とて山縣郡北野村鷲見美作守り明城と楯籠
り林道慶ハ鶴ヶ峯にひし城とて楯籠り翌弘治二年道
三北野より城田の地へ攻め景氣とて四月十八日
再び長良川の中より打出り義龍方より出迎ひ
同廿日し息しつたれ攻戦し道三方討負し

分竹腰根津守尚元今井外記石川六右門乾内記樋口忠右門
と始り五十余人討つれ道三は廿日の暮方城田の城を
ておろし所を小牧源太尾張の小牧長井忠左門林主水等追
うけてついで討つる名細記百茎根等ありてせうの
道三の骸と土中にうづり則齋藤塚とよみ
岩崎村ハ中福光の北あり御旗本領七百八十四石四斗八升四合。
諏訪明神社ハ町の南の入口に鳥居あり。鶴ヶ峯ハ町の東の
あり道三の兵士林駿河守入道々度々弘治元年長良川の軍
にさぶらり岩のりあり又麓にまう子と淵とありて風
景よくゆきこ餅と名つる石ありて外大岩ありたて
はがらりありあり岩奇の要害ハ齊藤道三岩のりあり
あり。靈松院ハ臨濟宗々々京都妙心寺の派ありて
打越村ハ岩崎の北西あり。同領四百五十九石三斗五合

西栗野村ハ岩崎の北あり御料七百五十七石九斗一升四合。大竜
寺ハ臨濟宗にあり石七斗七升四合の除地あり。船田乱記ハ當寺
の住僧淳岩の作にて前記の奥書に予頃寓雲門粗叙其所見
聞者以傳予後明應建卯之秋既望とありて後記の終りに栗野大
龍寺淳岩和尚之記也とありて。栗野二郎国光ハ分脈系図に美
濃源氏飛驒瀬太郎国成の三男ありてはたまたまハ人あり
あり。東栗野村ハ西栗野の東南あり同七百五十八石五斗六升
三田洞村ハ東栗野の南東あり。和名類聚抄に山縣郡三田とあり
はらりあり。當村山縣方縣兩郡の堺あり。同六百七石四
真井三升三合。法華寺ハ日蓮宗あり。真言宗ハ弘法大
師の開基あり。後世今の宗と改む美濃順礼記に鶴ヶ
峯の奥に法華寺あり弘法大師開基の寺あり。薬師観音の奥

佛并大師の御影等ありしと云ふ所なり此影像と弘法自作見返
の像は稱と云ふ事ありて世々の事ありて是れ其の事なり

真福寺村ハ三田洞の南にあり長良并ニ尾張御領八百六石濃

志畧 名古屋にあり九ノ半あり東町村ハ真福寺のありて西町村

ハ中福光よりあり百々峯ハ村の北東にあり岐阜中細言秀

長信の家臣百々越前守に居りし人苗字と百々と稱しけり

と云ふ史阜落城のり越前守ゆきと云ふ事あり天神社村

内にありて長良天神は稱し是齊藤氏の建立の社なり百

莖根ハ齋藤氏ハ利仁將軍の後裔に藤原氏ありて是れ

此一族當國の住人と云ふ加賀の當祖越之れありて菅神の靈と

尊敬し氏神とありて是れ菅神の靈と云ふ事あり齊藤の一族は

本地に必天神の社と勧請せし事ありて是れ其の事なり

西長良文殊北方白檜堀津嘉賀江三井八神等ハ此の社ありて

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

此の一族が住地に勧請せし事ありて是れ其の事なり

土堂安置之

上福光村ハ中福光の東にありて長良庄なり同沖領五百六十

七石五斗五升四合濃陽志畧上ハ五百四十名古屋五斗五升四合堀田

村ハ上福光の南にありて鶉飼屋上福光ト真福寺とにあり

鶉船七艘ありて濃陽志畧に有使鶉鷄捕魚者曰鶉匠按

鶉ハ洵河鳥也国俗誤以テ為鶉鷄ト毎年夏迄舟焚篝放鶉

鷄捕香臭官収其税ト云々香魚ハ国俗用點字岐阜製

鮎以テ充テ物遂ニ為岐阜名産ト云々長良川の鶉飼獵ハ

むりト云々世にもて中藤川記に十七日又つとて人の

目の紅はりて鶉を捕りては殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは殺すは

船より鵜匠一人あぐ移ば十二三羽やうつつよも絶
とらりまゝに移まぬのほろ魚と吐く骨て又水よりあぐ
入るそのもの業の相あつた事一ツ中くくりてし
鶴鷄も又その辛苦と勤めをいまゝもつて不思義
とつてし 本草云詭に濃州岐阜の人飼ひて年魚と
よつてし 島鶴鷄なる常の鶴鷄より大キくそ羽色薄黒
しつを捕りに知多師寄辺の海中の石に縋繩とて捕之
若捕しつゝ北海出雲の海濱にうつてつてし 菜服
長良の三郷にく 團にうつてし 其形細長く他所の蘿蔔に
異なり世に長良大根とつてし 名物なり 八幡社俗に鶏飼
八幡と稱す 神明社 山王社とて村よりつてし 法久寺ハ浄土
真宗京都西本願寺に直末寺し 古城ハ濃陽志畧に在村東北
壕猶存然不知何人所住 里老云枝廣左衛門尉居此而失其傳

とてつてし 土岐系圖に伯耆守頼貞の子福光左衛門尉頼直 從五位下 始土岐小

即住方縣郡福光とつてし 一同一人あり土岐氏連枝の多はと枝廣
と稱し又此地に住し福光も名のつてあり

雄総村ハ上福光の東あり 御旗本領八十九石三斗八升三合 尾総橋

ハ村の南のり長良川にひつて橋ありて 藤川記
たつ夫木抄に百首あり 夜笠内大臣つてし 藤川記
たつてし 橋とつてし

美濃の国の哥枕の名ありてあり

事ハ河筆の次ハ書つてし 七夕のつてし

りてのつてし 又大和物語とつてし 藤川記ハ
けりや 藤川記ハ 藤川記ハ 藤川記ハ

細書 千手院ハ真言宗の古儀ヨク 雄総山護国寺ニと号す 聖武
天皇銅像の大佛と鑄しトおやリ 行基法師に勅して治工と
諸国に尋ねテに當国厚見郡日野の郷に金玉丸と云ふ小童リ
見ゆク 仏像と圖トをシてシ 行基京都につクてシゆリ
奏聞して毘盧舍那の大仏と銘鑄シりタ 此金玉ハ觀自在
三十三身の分身トして凡工ニにリてシてシ 試ニに鑄リ觀世
音十一面ノ像ハ當寺の本尊トにシてシ 東大寺の大佛成
就供養の日紫雲殿の前庭に紫雲一叢覆ハいテてシゆリ
仏鉢と降りテ雲の中に声ヲりテ茲鉢ハ是釋尊ト在シ世ニ驚
山ニてシ持テ佛鉢ト希有の大像供養の佛事と天感
りテ降リ所ヲ知リてシ供養ヲすテのラみニ仏鉢と
金玉ハ麻呂ニ授ケりタ 本國ニ持リ歸リてシ當寺の什宝
今ニはシ傳ハりタ 寺傳ニにシるト

笠石

志段味村ハ真福寺の東にリ 和名類聚抄ニ方縣郡恩淡トとシるトハ
恩淡トハ志淡トの誤字トにしてシるト 尾張の春
日井郡志段見村ト和名抄ニ志淡ト 和名抄の印行
本志語に誤とシるト 尾張の春
なり 尾張御領二十石九斗一升三合名古屋ハ十リなり 長良川
ハ村の南にリ古津の下流ニ 百々峯ハ村の北ニてシ當村と
真福寺村ト 天神社ハ村ニにリ

尾張御領二十石九斗一升三合名古屋ハ十リなり 長良川ハ村の南にリ古津の下流ニ 百々峯ハ村の北ニてシ當村と真福寺村ト 天神社ハ村ニにリ

尊海僧正のありりれ道の記に
さの山の麓井の口より所は一日還道は
のせよとあるは
世の中は久がのり
五年より東照宮御料所より
み年の秋尾張の源敬公御拜領
升九合屋鋪北除高
大垣の城五里高源七の郡上八橋の城十三里苗木の城
二十里余岩村の城十九里尾張の天山の城五里りりり町名
如本町惣構の中央より横筋の東西通りは所を横筋釜石
町本町の西のつぎの横筋の釜石町の西のつぎの横筋の
横筋七曲町車町の西のつぎの横筋の釜石町の西のつぎの横筋の
釜石町の西のつぎの横筋の釜石町の西のつぎの横筋の

美江寺大
山に飯盛
のりて
は里田

加和屋町 革屋町のつぎの横筋の末は
南のつぎの横筋の末は
筋のつぎの横筋の末は
土居町 惣構の南のつぎの横筋の末は
町 上條土居町の南のつぎの横筋の末は
北のつぎの横筋の末は
西のつぎの横筋の末は
東のつぎの横筋の末は
中今町 中今町の南のつぎの横筋の末は
中新町 中新町の西のつぎの横筋の末は
西のつぎの横筋の末は
上大久和町 上新町の北のつぎの横筋の末は
下大久和町 中今町の西のつぎの横筋の末は
屋町 鞆屋町の西のつぎの横筋の末は
中竹屋町 上竹屋町の南のつぎの横筋の末は
下竹屋町 中竹屋町の南のつぎの横筋の末は
上矢嶋町 上竹屋町の西のつぎの横筋の末は
中矢嶋町 上矢嶋町の南のつぎの横筋の末は

右三河岐阜
奉行の
遊所
盛女も
追

下矢鳥町 中矢鳥町の南の堅き山にて上ノ切下ノ切の二町なり下ノ切 甚右

横町 上矢鳥町の北ノ切 東 鉦横町 西 鉦横町 鞆屋町の南の

米屋横町 米屋町の南の 次島横町 米

西土居原 惣構土居の西ノ切 以上町方に属す

當所町通りの木戸ハ左右に柱の上に木を横

屋根 他所の町木戸の

是岐阜中納言秀信の

の外村ニ属す

冷泉村の布屋町七軒町大田町等

上ノ切の西の忠節村の町家

と上ノ切の東の

町屋

り東北の上茶屋町下茶屋町

屋敷新田の地

の岸にありて福光村

町々

の町

前津村等

此れ名古屋の町

山

権現の

丸山

ひら

原行平朝臣

○此下古今和歌集

原行平朝臣

右三岐阜
奉行の
遊所
盛女も
追

下矢鳥町 中矢鳥町の南の堅よりたて上ノ切下ノ切の二町なり下ノ切 甚右

横町 上矢鳥町の北へつゞき 東 鉦横町 西 鉦横町 鞆屋町の南の

米屋横町 米屋町の南の 矢鳥横町 米屋町の南の

西土居原 惣構土居の西へつゞき 以上町方に属す

當所町 通りの木戸ハ左右に柱の上に木を横

屋根 合

是收阜中納言秀信の

の外村 属

今泉村の布屋町七軒町大田町等

上納の

山口横町

町屋

り東北の上茶屋町下茶屋町も木挽町や屋町も古
屋敷新田の地より北の中河原新田の町屋ハ長良川の南
の岸にありて福光村の北より入る北口より以上岐阜属邑の
町々より外に家つたれは北より岐阜
の町より古屋の府内に在りて古渡村日置村
前津村等々の数村に亘り府外の町々も差別なく
これ名古屋の町の一例に在り。稲葉山町の東にありて因幡
山に書れ又金花山破鏡山にありて山の峯別なり。南の
権現の山にありて幾峰ありて山一名金華山北の
丸山も権現の鎮坐ありて今の地に遷坐ありて丸山
ひも山の本所なり。古今和歌集に題ありて今
原行平朝臣

ゆいさき... 集の古人の註... 此山の...
因幡の国の山... 雲待抄... 美濃の山...
井蛙抄... 夫木抄... 美濃因幡西國...
葉... 今...
藤原實方朝臣... 一条殿...
山... 地名...
建保三年...
女...

古今集に撰政太政大臣家哥合に秋旅... 藤原定
家朝臣...
秋風 いさ 拾遺愚草にハ正治二年ニ 建保三年名所百首に因幡山頂
徳院御製 雪れ内に...
僧正行意 秋の日に...
参議定家...
家衡...
宮内卿家隆 秋乃田の...
権中納言忠定...
いさ 夫木抄

り名細記に元仁のち居りしより居りしを兄光宗もい
へし苗字の上に稲葉と名のりしハ稲葉山の城主ありし
ありし一佐々木塩治何某土岐今峯何某と名ありし
人とむし例なりしものなり城主二階堂出羽守行藤ハ名細
記に正元のち上當城にまかり乾元々年ミヤカリよりあり
せり行藤ハハ系譜に山城守行政の二男圖書頭行村
の孫備中守行有の長男にて從五位上出羽守左工門尉正安三
年八月出家し乾元々年八月廿七日卒五十七より関東
評定傳の弘安五年同六年同七年の条引付衆のりし
二階堂左工門少尉藤原行藤云々よりあり以上城主
数人ハハ鎌倉將軍家の執事たりし世に歴々たり高
家ハハハハ齋藤帶刀左工門藤原利永農陽志畧に應永年
中古城を修理し居住し兄左大臣魚名公の裔孫齋藤

越前守利政土岐左京大夫の子にて越前守と稱す此人
神道と尊崇し稲葉神社の他地にもありしを今の所は土加納
の天神の社と創建し又禪學に帰依して武儀郡谷口村の紛
陽寺と建立し土岐持益の執權にて寛正元年四月廿七日濃陽志
卒し法号と大切宗輔居士とす齋藤系圖に利永文
安二年己丑八月築土加納城居之とありし城の
りしもの出城なりしものの子帶刀左工門利藤ハ
知名四郎二郎のち越前守と稱す土岐美濃守成頼の執權
にて退隱のち持是院權大僧都法印大年念妙椿と
号し河守の持是院の隱居の地なりし人文學をい
たりし藤川記
に法隆の山にむし野の山にむし藤川記
のちありし妙乃松のちありし藤川記

たきくこのつれくさるるをいふ事なり
とあるは、松の志、人の心、の妙椿のゆき、東下野
守常縁の家集、齊藤入道、急念、贈答、そのせ
文明四年に當所、因幡神社の縁起、書寫して寄進、
り、小島の口、奥書、依持、是院法印、權大僧 都妙椿 見宗
不省、春蚓、秋蛇、之嘲、終書、功、兵、
に、雅人の名、
兼、
て、悟溪、和尚、を、招、
と、其、將軍、義政、故、
和尚、の、將軍、の、帰、依、僧、の、左、右、方、和、義、と、
の、カナ、
の、位、牌、が、瑞、龍、寺、の、中、の、開、善、院、に、
カナ、越、前、守

利国 名細記に新 四郎利国 妙椿僧都の猶子なり 實ハ甥也 藤
田記に川手の持是院に、
大僧都妙椿、
藤新四郎利国、僧都の姪、
土岐成頼、政房二代の執権、
臣石丸玄蕃利光、武功、
字、
住せ、
の、
領に立、
應三年、利国、大寶禪寺に建立、
と、
覺、舟田の合戦に、

合戦にかりしは舟田とありしは近江国にありしなり同年の
秋政房家督をつき美濃の守護とありし川平に在城す同五
年四月玄蕃利光の子利高等兵と祭りし近江にありし
より元頼と大将とありし城田地に在りし利国政房とありし
國中隣国の勢と催りし玄蕃利光とありし終に
も勝りし元頼利光等皆自殺す同年の冬利国軍兵を
率て近江国に打出蒲生左衛門大夫貞秀入通知南と合戦す十
二月七日蒲生郡日野の中野村のなりし利国以下
戦死と法名持是院権大僧都法印一超妙純江北記に明應三
年九月廿三日環山寺殿高木と持是院合力申濃州より津入国に
明應四年齊藤丹波石丸の合力南衆南近江に在りし宮部合戦に
失勝利國環山寺殿石丸へ御穿入候十八日の間津坐して被
對御本意に明應五年に持是院南へ被取搦りし前齊藤丹

波と合力の儀無念のなりしを掛かりし失利無正躰落居し樋口
陣と申し此時のゆゑにありしなりし日野合戦のゆゑに利國の
室二条兼良公の女細姫ありし利國戦死のゆゑに尼ありし万
縣郡小野村に隱栖し天文七年八月二日八十二歳とありし卒とありし
子齋藤左エ門尉利親の幼名と大納言ありし父利國とありし
に明應五年十二月七日近江の日野に戦死年廿四法号權律師
大猷紹興ありし妙親とありし利親の才又四郎利茂に當郡に
信ありし以上利藤利國利親の三代と濃陽志畧に稻葉山の城
主とありし右細記に利藤利國の二代と上加納の城主とありし
上加納の地いの南のなりし地つとありし齊藤氏の領
地なりし稻葉山い上加納の兩城とありし主維とありし二様と
ありし父利親戦死の尉利良幼少ありしとありし一族白檉の城主長

齊藤左近大夫秀龍名のり又山城守に改む天文十年大
恩のりる主君頼藝を追ひ退け美濃一國を討びひて押領す
隠居のり道三と号して躰山の城に居り弘治二年四月廿
日戦死をりは山城の西の岡より来りて立身したるは
道三の父を永井豊後守と号し人々豊後守死してのり
子利政のり道三と名のり江濃記に齊藤家
の家僕に永井藤左門同豊後守也豊後守山城國西の岡
より率入して齊藤家に侍り藤左門の共力をかりて度々
合戦に功初とつみ永井豊後守と号して家の家僕と号し
齊藤家の家督断絶の附彼の家領を兩人して知行此のり
義尹と細川高国より存藤と号し上ら賤りるは
公方より勢と向られ永正十七年に近江勢よりひり付革舟の城
をとりし是に要害あり是に稲葉山を取て是城をひりては藤

左門と豊後守は不和なり豊後守は病死して其子山城守利
政が弑せられてやがて藤左門を討てり齊藤と名乗取自ら美
濃半國と知行し入道と号し是のり又堂洞軍
記元禄のりに齊藤山城守のり都の傘張にてありし
のりは名られ侍りては立清水寺の觀音に
籠りてのり七日満る夜の夢に藁とありて傘を
其のり告あり其れは美濃下り附の守護土岐時益た
り中間奉公より立身しては道三子七人
のり長男ハ一色左京大夫義竜實ハ土岐頼藝の胤子なりとの
次ハ右京亮始の勤九郎のり其弟玄蕃始名喜のり才僧且曉
岐阜常在寺五世の住持のり其弟目覚同寺六世の住僧のり女子三人土岐七郎頼光
室土岐八郎頼香室織田信長公室のり當城にては
人のり一色左京大夫義龍ハ秀龍の長子にて實ハ土岐頼

等竜兵の行状の記述をうかがひて、信長に通を依之竜兵
たつと心得を志す多て近江に走り妻室の父浅井備前
守長政に寄居りての朝倉義景に属して軍功ありて天
正元年癸酉八月十四日越前国刀祢山合戦に戦死す家
断絶す其墓越前国足檀村にありて法号と瑞雲龍兵
居士とす當町の常在寺に位牌あり監屍に信長公古
渡りの城に在りて毎夜北の楼に上り久しき
阿まひつりし御室の齋藤道三が女メカを嫁しけり毎
朝ひびくことありけりといふたゞいせを問ひ
しにその公もいひてしきり努くしめりつり色丹
も出りしに齋藤の家老と謀りて岐阜をいせし
中つかりの家老藤もいせし主城を攻め必しく火を奉ぐ
たつとて討火を必くし力せしと約せし凡今しや火

の氣にゆきしつり御室の御室もいせし室もい
さかすまのつりしつりあはれ躰に也が翌日文何り
いせしつりつり龍興再すいせしやが家老等
と有無なく殺しけりいせしつり信長公岐阜とん
安く攻りしつりいせしつり夫婦の中にもいせし
おきりしつり多しつりいせしつり織田上総介平信長
ハ永祿七年齋藤龍兵と近江に追退け九月尾張の清
瀬より當城に居りし十三年のつり居住りて天正四年
二月近江の安土の城に居りし稲葉山の城といひ
て信長澤彦和尚と議り周の岐山の故事に拠りて
岐阜といひしつりいせしつり安土創業録鹽尻等に
信長ハ織田備後守忠と稱す信秀の長男公補任に故彈正忠
系譜に織田信秀嫡男とあり母ハ土田下総守源政久の女なり
監屍等に御母儀

八上田氏の女とて... 雍州府志の陵墓門に花屋壽永尼塔、在大徳寺、
信長公、母公の女とて... 補任織田真紀等
に母の姓氏をのせり... 江源武鑑と
の外、俗軍書大系回等に母ハ六角大膳大夫高頼ノ女とあり...
録... 俗書にて実 天文二年 尾張の愛知郡那古野の
城... 誕生... 幼名と吉法師殿と... 那古野の古城ハ
持あり義元の才今川左馬助氏豊... 織田信秀調巻と
りて攻め... 同国勝幡の城より... 信長之城に... 誕生の
合戦記... 名古屋 天文二十年のころより上総介と称す...
彈正忠... 名の... 當城... のり 天正二年
三位の昇殿... 公卿補任... 公卿傳... 名古屋官府
に天正二年 甲戌三月十八日任参議... 同日叙従三位... 官位正四位
下 彈正忠... 歴名土代にも平信長織田彈正忠従五
位下より 天正二年 三月十八日昇殿... 志... 又
公卿補任に 同三年乙亥十月四日任權大納言... 同七日任右
大将... 傳... 以上ハ當城主の時の昇進...

同書に同四年丙子十二月十三日叙正三位内膳在內大臣 石大將如元
公卿傳に
陣宣下 同五年丁丑十二月十六日叙従二位十月廿日轉右 大將如元
四十四
同六年戊寅正月六日叙正二位四月九日辞西職...
安土に... 轉任... 傳... 同十年六月二
日為明智光秀於洛陽本能寺自殺... 是日勅贈大政大
臣従一位通号泰岩号天徳院改惣見院... 信
長政卓在城の... 永祿八年當国苗木城主遠山勘太郎
の娘と養女とを... 武田勝頼と嫁せ... 信玄の
女と嫡子信忠と縁... 同十年五月信長の女と岡崎三郎
信康主の家室... 同年八月より伊勢国を攻撃同十一年上
朝北伊勢を攻從... 和睦あり... 信孝と神戸藏人の
養子に... 同年四月信長の妹と近江の浅井備前守長政
と婚姻... 義昭將軍傳教書... 將軍と當

信孝退城のら秀吉公の命に依りて是を以て翌十二年
四月九日尾張の長久手の軍に戦死と年二十一池田侍従輝政の
信輝入道の二男に於て兄之助討死のら當城主のら太閤記
の秀吉公関白職の宣告ありて奈内を以て供奉の人
に之を任官せりしに依りて岐阜侍従豊臣照政のら其
のら入りて甲申戦闘記宝曆十三年八月尾張の小牧の田中平左衛門
の著作にして所引古傳ののら書
実録のら輝政の永祿七甲子十二月晦日小牧のら身
の半と生と翌乙丑二月朔日にしりて全く安産と故に稚名を
古新丸とすし付生年の論ありて子年にやまし丑の年にや
せしと評議率に不決して八幡宮へ御圍と合元則社司木全
藤太夫子の御圍を以てしりては輝政備前と賜
のら岡山に居住しりて慶長十七壬子年輝政異剱に依りて
氏神の祈禱を可致しりて銀子十五枚小牧へ送らる小牧の長往

古と不知して小牧神明の社司清洲新助へ遣はれ藤太夫聞之實話と
紀すしりて新助ももに備前へ趣き互にのら暮ゆとす
其も真偽不明の所に岡山の城中に老嫗一人ありての論を聞て
言我小牧のら御誕生の御忌明に御供仕りて詣たる神社
よく寛きりての神へ八幡宮に小牧山の西北にありて南へ
臺門あり八月十五日競馬の神事ありて御社に殿の氏神
に之を供せりて藤太夫のら余に決せりしに附の
證文余に藤太夫所持と云ふとあるに藩翰譜の池田家系
勝入父子討死のらとすに條に輝政手の兵散々にしりて
これ信輝之助討死のら討死とすに取て
之と輝政の家人伴大膳を以てのら厩乃舎入ありしに
唯一人追つて馬の口にはしりて引く一鞭あり輝政の
つらつら不覺の奴を以てしりて燈籠に

去きよのち慶長七年七月當城を壞らるゝ加納にうつる。城郭
はつとくくのりいたる。岐阜御山と稱し。岐阜奉行の預りに
俗人のどみりに入ゆ。禁らる。津山の四方の間
敷大畧左の通り。西ノヒラ九百八十間北ノヒラ千二百六十七間
東ノヒラ三百二十四間南ノヒラ千八百四十八間總計四千四百二十
三間町敷と積りて七十三町四十三間とのうち。舊跡多し。赤
川洞ハ城山の麓の西北のあたりに中納言秀信の別業の
趾に九山のちり。ひろく遊山なり。此に。千畳臺
ハ赤川洞九山の南にあり。城主のたみ。千畳臺敷
の跡に。槻谷ハ千畳臺の南の谷に則。津山西の麓にて
下千畳敷に。城主の住所。平地ひろく東のくに細き
滝あり。石垣ハ加納の城築。引移して今。形の
の。七曲坂ハ葎屋町より入る。大手口より坂路屈曲して多

り曲まり。名は天正記に齊藤山城入道道三光道に
て。殿の。子二人と。駕に。切腹を
の居城を乗り取り。誰や。主を。むら。の
みの。むら。今ハ。落書を七曲
立。百曲坂ハ山口町。の。城の裏門口
あり。路險。ゆ。坂の口ハ老松の
呼。平松。源敬公名。名木
が享保年中。今ハ。達智洞ハ
天守臺の東南の。今ハ。稲葉大神
古縁起。舊地。中古白井氏の人。壑。て
田畑。子孫。山。楳原
此。山の西南に。慶長五年石田三成。家士。楳原彦
右五門。八月廿三日。浅野左京大夫に。彦

谷井戸谷 階子谷 尼谷 山拵谷 砂利谷 岩舟 岩穴 屏風岩
鼻高岩 切通 西条 東条 馬冷場 水之手 鞍懸 米藏 日野垣
りて地名なり 猶圖に合せりるる 雨池 御手洗池
あり。稻葉權現社ハ南の山西のつりの高に町ありハ東の
にりり 祭神ハ五十瓊敷入彦命と日葉酢媛命 淳熨斗媛
命 物部神 配セ享ス 延喜神名式に厚見郡物部神社
と云々 美濃神名記に正一位 伊奈波大神 從五位下物
部明神 日本書紀に 垂仁天皇十五
年秋八月壬午朔立日葉酢媛命為皇后云々 皇后日葉酢命
生三男二女 第一曰五十瓊敷命 第二曰大足彥尊 云々 三十年春
正月己未朔甲子 天皇詔五十瓊敷命大足彥尊曰汝等各言精
願之物也 兄王詔欲得弓矢 弟王詔欲得皇位 於是天皇詔之
曰各宜随精則得 矢賜五十瓊敷命 仍詔大足立彥尊曰汝必繼朕位

同紀の三十九年十月の記の細註に云五十瓊敷皇子
居于茅渟菟砥河上而喚鍛冶名河上作太刀二千口是時
部倭文部神弓削部神矢作部大穴磯部泊檀部玉作
部神刑部日置部大刀佩部并十箇品部賜五十瓊敷
皇子其一千口太刀者藏于忍坂邑然後從忍坂移之藏于
石上神宮是時神乞之言春日臣族名市河冷治因以命市河
冷治是今物部首之始祖也 鍛冶に命す多し其太刀と云々
りて云々 此世に武神と仰ふに延喜式に物部和
社と云々 藤原の地と云々 椿原の地と云々
と天文八年齋藤秀菟城と云々 附今の地 遷坐なり
と云々 濃陽徇行記にハ本社の北の所に丸山に鎮坐
峯の權現ハ天守臺の所に鎮坐りて云々 土岐の家臣永井

豊後守... 城を築... 山に近座を又前太平記...
源国房城... 丸山の根に今深淵... 御手洗
と称せむ... 承和十二年七月辛酉美濃国厚見郡元位
伊奈波神奉授... 從五位下依国司等解状也...
代実録... 貞觀十年十二月五日戊子授美濃国從五位上伊
奈波神正五位下類聚国司用元慶二年九月十六日戊申授美濃
国正五位下否間神正五位上元慶四年十二月九日己未授
美濃国正五位上板刻本三代実録正五位下伊奈波神從四位
正五位下... 進位古書... 美濃神名記...
文永二年乙丑活洗二日從三位藤原朝臣經朝の... 當
社の額に正一位と云... 伊奈波神の
階... 撰社本宮... 権現... 伊奈波神の

御母日葉酢媛命と云... 金次明神... 伊那波神の御妃...
熨斗媛命と云... 是景行天皇の皇女... 類聚国
史又三代實録... 貞觀十年十二月廿五日戊申授美濃国正
位上金神從五位下... 美濃神名記に厚見郡正三位
金大神と云... 富社本縁起... 陸奥國
金石の神魂... 金華山... 伊奈波神の御妃...
神... 金石と伊奈波の神の本... 古...
日本靈異記にも美乃国方縣郡水野御楠見村有女
入姓縣氏也年迄二十世有餘歳不嫁未通而身懷妊...
三年山部天皇世延暦元年美奈春二月下旬産生二石...
五寸色青白斑色薄青每増長有北郡名御薄見是
郡部内有大神名曰伊奈波女託... 言其産石是我子因
其女家内立忌籬而齋... 往古今未未都見聞是名我聖朝

奇異事矣。下者可三竹離可齋移都社古託託託託
伊奈波神の御子市鼻雄命と云ふ。后
御前伊奈波神の妾見御前の母毛里權守倫満女あり
大神門伊奈波神の御乳父毛里權守倫満あり。兒御前
父伊奈波神の御子母は后御前あり。高山公毛里倫満の
室后御前の母あり。野宮公倫満の子毛里小次郎国満之
曾祖路宮公富社本縁起のそとに笠博士あり。八王子公
常山の守護神あり。惣社本縁起にあり。五十瓊敷命
因幡国より帰浴しあり。供奉あり。五百余騎の兵と
祀まり。楯縫部。倭文部。神弓削部。神安作部。大穴磯部。前
檣部。玉造部。神刺部。日置部。大刀佩部の神。日孝書
絶の一書あり。富社本縁起のそとに伊奈波大神縁起
後母屋の神あり。社傳不齊藤道平將織田信長公

より社領三百貫奇附あり。その證文累年の兵火に紛失新
豊臣秀吉公檢地あり。社領と没収して傳へり。久米及濃陽
志畧より台徳公の正妃宗源院太夫人八浅井備前守長政
女也。其母為織田右丞婦長政自殺時信長婦逃来岐阜産
一女是宗源院太夫人也。故以此祠為生土神殊。信仰之屢。賜者
銀より負たり。例祭二月三日車樂三輛あり。小車
樂二十四輛あり。今廢して此二輛のこのより神主監
谷氏社僧満願寺。富社本縁起の古嶋本あり。文繁の事
實あり。その所在は伊奈波大神門より西にあり。皇代西天
皇正統天皇美濃国第三宮因幡社本縁起事。神皇正統天皇
神日本磐余彦天皇。奉侍神武天皇十一代御門活目入彦五十狹彥天
皇。奉侍垂仁天皇。御宇十五年秋八月壬午朔立月葉酢姫命為皇后。

生三男二女第^一曰五十瓊敷入彦命第^二曰大足彦命此外於他
妃男女十五人^備十九人御坐同廿年春三月己未朔甲子天皇
詔五十瓊敷入彦命大足彦命曰汝等各言情願之物也兄五十
瓊敷入彦命詔欲得弓矢弟大足彦命詔欲得皇位仍天
皇詔之曰各宜隨情則弓矢賜五十瓊敷入彦命詔大足彦
命曰汝必繼朕位云同廿六年秋七月甲戌朔己卯皇后日
葉酢媛命亦曰葉酢根命薨臨葬者曰焉天皇詔群卿曰從
死之道前知不可今此行之葬為之奈何於是野見宿禰進曰
君王陵墓埋立生人是不良也豈得傳後葉子願今將議便
事而奏之則遣使者喚上出雲國之上師部壹百人自領土師部
等取墳以造作人馬及種種物形獻于天皇自今以後以
是土物吏生人樹於陵墓為后葉之法則天皇於是大喜之
詔野見宿禰曰汝之便議定洽朕心則其土物始立于日葉酸

命之墓仍号是土物謂墳輪亦名立物也仍下令曰自今以後陵
墓必樹是土物無傷人焉天皇厚賞野見宿禰之功亦賜銀
地即任土師職因改本姓謂土師臣是土師連等王天皇喪葬
緣也所謂野見宿禰是土師連等之始祖也今廿七年春正月戊寅朔
立大足彦命為皇太子同廿九年冬十月五十瓊敷入彦命居
于茅渟免砥河上宮而喚銀名於河上作太刀一千口右一云作釵
其釵謂川上部亦名曰裸伴藏于石上神宮
也是後命五十瓊敷命保于石上神宮之神室是時楯縫部倭文部神
号削部神矢作部大穴磯部泊檀部玉作部神形部日置部
乃佩部併十ヶ品部賜五十瓊敷命其千口太刀者藏于忍坂邑
一云藏石上神宮也然後從忍坂移之藏于石上神宮是時神志之言春
日臣族名市河令治因以命市河令治是今物部首之始祖也同
八十七年春三月丁亥朔辛卯五十瓊敷命謂妹大中姬命曰我老
也不能掌神室自今以後必汝主焉大中姬命辭曰吾子弱女

人也何能登天神庫耶五十瓊敷命曰神庫雖高我能為
神庫造橋ツクシ豈有煩登神庫乎故諺曰天之神庫隨樹橋之
此其緣也然遂大中姬命授物部十千根大連而令治故物部
連等至于今治石上神室一是其緣同十九年秋七月戊午
朔天皇崩於經向宮時歲百四十歲冬十二月癸卯朔壬子
葬於萱原伏見陵仍天皇之第二皇子大足彥命為
皇太子御即位奉号大足彥忍代別天皇亦云景行天皇御宇四
年春二月甲寅朔喚八坂入媛為妃生七男六女第一曰稚足
彥天皇亦曰成務天皇身六曰淳熨皇女五十瓊敷命御息所也夫天皇之
男女前後并八十子御坐然除日本尊稚足彥天皇五百
城大彥皇子之外七拾余子皆封國郡各如其國受五十
瓊敷大彥容貌美麗而勝世力量勇健而越人御長
不夫餘也御心操廉憲法而憐貴賤御戈學達智而

通文武然天賦皇德思食世命親厚朕既而增無二也初
可奉禪御氣色洩聞問天皇之太子大碓皇子御乳人
陸奧守中臣部豐益連奉見五十瓊敷命成嫉妬之思
我養君大碓皇雖天皇之為太子如今者即位事成不審
之思伺便直五十瓊敷命陰謀之念御坐之由時々依棕
叡聞切心天慮變無是非可奉出都外之由有議定補因
幡守奉遷當國此命御息所當帝御娘淳熨皇女也
為叔姪成夫婦然命離折之間互御餘波不淺而御息
所雖慕御坐天皇無御許而法留共流御悲歎之淚彼
御有樣無比類御事也雖然頻直旨重者不友力給柶馴
都除御覽九重交隔山陰不任御意者無力有御出
未習御放空懶御事時思食列經日數者著因播國
府其後構御在所於毛里鄉奉移彼所然者為當國

太守國務致撫民政斷善施精此命非尋常刺史當障
御兄弟之上御憲法之間國中謫令歸伏偏如天子政宗
敬奉背者無之雖然於是空送斯月与匹夫共迎閑日之
處朝家之重御室從神代傳三種神器其一宝劔夜有
失事之間天皇大驚思食惱宸襟御坐被召轉士有御占轉
士占曰日本大金九成一石其形嚴而有奧協係宝劔心於件
石夜之出禁中也被召被金石被立鳳闕者帝都亦繁昌而
朝威而復四海天下復豐稔而聖化及國土信之千時御門尤可然
思召即謀當國守中臣部豐益連可召進彼金石之昔被宣下
之間國司任勅定加下知之處國民等物惜曰彼金石為當國護
往昔以來在于今皇當代出此國之外事不可叶之由令一同不奉
獻之間天皇有大御逆鱗被召群臣被經議第一箇度勅使者
日本武尊為大將軍引率數萬騎官兵可搜取之由被宣下日本

武尊自天照太神申賜茨村雲劔有御下向於東渡吟聲起塞
路次雖然弟族尽被致伏畢受東夷者雖被攻從於金石者猶以
不及被取進空御上洛之處自美濃國伊富貴邊有御惱終於近江
國令薨去給則現白鳥无東方飛去落苗尾張國熟田里之御
門益惱宸襟不安思食也慮御坐遣何人可被金石各能可
勤申之由被御下之處五十瓊敷入彦命者大刀勇士正直賢
聖勝世御坐者尤可被召仰欽之由各依奏一同急速可被召
矣以天和守物部千武首為御使者被差下因幡國之間千
武參毛里御所着進宣旨言上慮慮之趣然命無御勇
之由有御返答者御乳父毛利權守日置部倫滿曰非若御
所之御更云市鼻雄奔御事亦存季滿毛里等更此條
無御兼引者不可然之旨倫滿再往就諫勸申企上洛趣飯
浴給御供御子市鼻雄命御乳父因幡權守毛利日置部

倫滿國同嫡男太郎季滿同次男小次郎國滿以下惣而因幡
一箇壯子等哉。馳參之間都合其勢伍百餘騎而有御上洛
仍五十瓊敷命參禁裡見滝顔御門大喜御坐急有下向
奥州國民等所惜隱搜取金丸石可有上洛之旨有綸言即被
戒宣旨然後御息所溥熨皇女御方御對面日頃御悲歎
互不尽御事也將又市阜雄命同御對面此命御息所御腹
御子自幼少御時雖有御厭却母子恩愛中互流御感淚誠
哀也御息所仰曰方以奉見心苦敷覽御淚漣泣雖然勅令
依難默止不及閣之出御息所給年取一首御詠云
御息所云
野乃為紫の霞のよきと
望權守倫滿之元娘為止童被召異常被召之由聞食而有御
逆哥字然後五十瓊敷命引率五百餘騎勢次足彥惣代別斗

二月壬午三月三日立大和國纏向日代宮下向奧州同二月十音
下着陸奧國既及宣旨二箇度者國民等強不鞋申仔細奉
見件金石立所於是同形石八立此中一石金丸也何為金丸否無
分別之色仍課國民等雖可被尋仔細本自令怯惜之者不言
分明之間有御迷或暫御思案之有莞御母后日葉酢媛命
忽然化來御坐曰欲知金丸者以一面鏡每石被中鏡中金丸
之時者必金丸石可破鏡之旨託給如夢而不見給餘人更不
奉見之不可思議御事也依之每石被中鏡之刺如託中陰丸
之時破鏡畢則被召彼金丸爰國民等為藏此金石集同形石
立副金石名彼石号八石云々今度被召取金石一之後者称七石
云々被金石者高三尺六寸圍八尺也則以數輩人夫之
翌年癸未正月三日立奥州有御上洛以當國守中臣部豐蓋連
自路次御使者而件金石無相違搜取令參止由可獻聞而為先

早馬被送進京都豐益揚鞭早駒馳上程五十瓊敷命先立十
奈日打上爰豐益就為當國守寂前雖被仰付強依國民等申
得其語閣是畢而今獲如是及御沙汰之間凡日頃之不法依
失面目彼金石無相連之旨一言不及奏聞而構出不實君未
知食之哉五十瓊敷入彗命御息所聞食室劔夜失之由得折
御坐語十博士金丸有奧州室劔通之由為冷占奏下命於奧州相
語棟夷奉願帝位廻壽策御坐之由令漏諛奏之間久和守
于武首成喜差合諛言同心然間御門大有逆鱗則于武子豐
益兩人隔大將軍被差向十萬余騎官兵可奉誅五十瓊敷命之
由蒙宣旨各馳向東山關外入命御息所濟殿皇女者當今之
姬宮而親子御中也雖然依諛臣凶害成朝敵御坐而可奉害之
由風聞雖恐不及御陳御心憂奈迷于洛城之外御坐而於攝津
國河尻邊乘商人船無何方遙浮漫海上乘悠悠之船中任身於

風漂心於浪御坐後十博士者當今御代自高麗國來奉朝
被召社朝廷外筮道止推察但如指掌十方更如仏神告就吉
凶所指申雖一事不違之間御鐘受無雙而雖被召仕依不實
諛奏忽被誅伐也畢不便事也同十二年癸未二月五日及夕五
十瓊敷入彗命着美濃國厚見縣平田河東津自都討手大
將以下官兵者向平田西津而隔河取陣官兵等所差揚旗
足被吹春風飄天被翹暮日掩地如白雲見者毛里權守倫滿
現之彼何所土民尋之處自陸奧國御上之五十瓊敷命引率
東夷成朝敵御坐御上之由有其聞自都討手官兵旗足也
語中倫滿大驚則申此由於命曰於我身者無誤更何様負無
實說覺暫供奉輩可靜待於是無左右致合戰者被落謀器負
罪名猥滅亡事後代可為耻辱以何篇遂上洛無誤之旨可奏
披之旨被仰下者毛里太郎季滿曰御定雖然此事更陸奧守

豐益諛奏也日頃有兼及者之上今無所悼為討乎大將參對
之上者縱為降人雖有御出當不可奉助然者合軍被誅伐事
口惜次第也雖無御誤思食我君黍活目入彀五十狹芽天皇
並仁旁一皇子嗣王位給事雖無所疑我有御望受持弓矢專
武畧之業御坐之上者不可有是非御顧且因州之兵共所見及
耻辱也所詮於季滿者射落豐益於一矢何言可罷成之由
則著甲冑既欲打出命聞食此旨季滿神妙也有御感同被
召武具乘御馬打立五百余騎中御坐突弓杖立騰御覽前後
左右因州勇士等各于今供奉之條誠神妙也於我身者雖無其
誤余蒙勅勸之間於是非所思切也至汝等者面々為降人企
上洛助身命可下向生國被仰會者共各曰自陸奧令供奉
至今致勤厚忠之上者今復不可奉捨之由僉一同並喜懸入
宿願十分餘騎我先捨身命防戰之間官兵御方共多亡援

陸奧守豐益係毛里太郎季滿之手討捕之雖遂本望被取竈
多勢之中為敵被生虜舍身毛里小次郎因滿者令討死畢市
草雄命御歲十五歲赤地錦直垂著紅裳濃御鎧帶金作御
釵負成十八指切生箭於頭高持村藤弓數金伏輪鞍於連錢
鞞毛馬被召御方軍兵自元依無勢心討雖武思大勢押圍攻
戰者被討成散之見程市草雄命取番表箭鏑懸出給者
父五十瓊敷命伴有出進御坐處御上童更衣奉取留片時有
後君事可心憂先害我可有御出被悲申者命思食煩御坐
既拔釵欲令害刺彼上童懷妊今滿十箇月待誕生之處此
照太神哀無實之罪免有待之若有御祈念者神慮在納受

●夏出未而今
胎内御子三声
注給命聞食
之銘御肝仰天願天

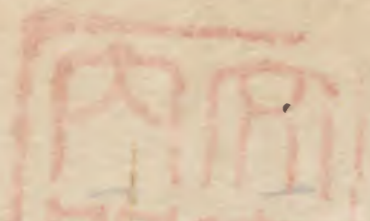
天晴不雨降頌大洪水出来平田河原混東西涯洋水湛陸地
逆波塞崖路引退敵陣遙成隔然間為御產平安男子御誕
生如斯處自奥州被昇持金石者及合戰之時藏置厚見

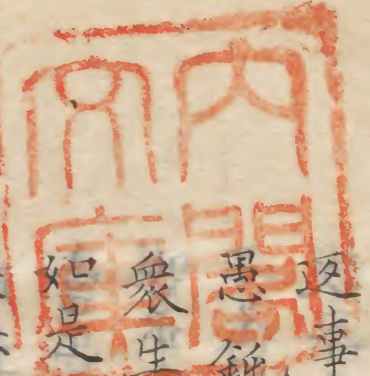
縣良椿原中一夜內出現三十六丈山五十瓊敷入彦命并
御猶子市阜雄命今度御誕生若宮共則入被山御坐
失給畢此條旁以不可思議之神變也自京都下向大
將軍大和守干武以下官兵等奉見此等之次第成奇
特之思不及力相具生虜毛里太郎季滿計令參洛緯次
弟始中終奏達之天皇成希有之慮應迴時日御坐五十
瓊敷命式日忽然令化未或夜出現夢中見天皇此景曰
帝從四海境內主国土大政聖慮誠以雖賢御坐信紆接
之謬讚疑達道用諛棄實終以不御覽金石有忠無科
貴公賤私子還蒙罪之條其御咎不輕之雖何奉致返報
為謀臣所行之間今所奉助也於諛者豐益者既令誅伐
畢至于武者干今雖助置終令隨罪無間地獄於彼子孫
等者永可斷終也只口惜者無實之虛名也爭不被滅哀

乎爰予無罪而被勅勅事大梵天皇被垂哀被慰爵憤予
神号被授神於因幡大菩薩今於金山垂跡可施利益於
衆生而衆多被付從神号然者干今住彼金山於是助無
實輩濟度四方群生欲滿望告示給帝大驚御坐被指下大
臣武內宿祢於勅使則以當國厚見縣被補御敷地於當
縣之內椿原今小生金山麓構社檀同天皇十四年甲申月
十六日奉崇因幡大菩薩被宣命畢次大菩薩母后
日葉酢媛命御靈大菩薩於御一所有御坐之旨依
有御告任神勅奉崇當山之峯奉号峯權現稱亦同奉
宣命畢面及王子眷屬同如然仍定四季御神樂
二季法會以下祭禮為恒例之禮奠奉休五衰三熟之苦
勤行也然者靈驗弥盛而施神德於遠近利益新而
示嚴重於緇素不限當國及隣國奉仰威光蒙利生諸人

繁多也次大菩薩御息所濟慰媛命美濃國厚見縣平
田東津五十瓊敷命被討御坐傳聞食御心通彼所之故被
召御船如思食無相違著平田東津之間於當所被尋此
御事等之處被津長老翁出未曰金石被持人者亡後
其石者一夜內成山見彼于時濟慰媛命御覽彼方其石
者著是津侍所也然自今以後者於此所者可号金津我
則可住此所現金大明神於金山者因幡大菩薩依為
無跡之地号因幡山又元三尺六寸金石而頭成三十六丈山
之故称一石山復於奥州被召之時破鏡之故名破鏡山也
將又毛里太郎季滿者合戰時被生虜在京洛之程五十瓊敷
入彦命被宗因幡大菩薩御坐之時思可相叶神慮以季滿
可為一石祠宿被補祓且改本姓日置部縣宿祢也及因幡
大菩薩無跡於金山御坐事人皇十代帝景行天皇十

四年以來至同世二代帝用明天皇御宇送五百余歲星霜
之處自百濟國被渡弘經僧尼等於本朝其僧中難行
法師有天之隱告林中見之美濃國厚見欽明天皇御
宇改縣為郡有耀
金山仙菩薩多々現御坐奉見則夢覺之後摸所見
夢金山形圖繪三令下向當國尋入當山拜見靈地之處尊
巖峨々而驚目金石巖々而耀眼三十六丈之前冷水從北
腋流号是因幡
河四十地之飾懸鈴普照東西見之則心清淨而
成至佛土思實佛神令影向靈地不覺致信心閑籠
當山之巖岨為奉見本形一日致勤行奉祈誓之處或夜
告示夢中欲見我躰當山東方有大池号達至彼池可見我
云々仍翌日未明莅彼所奉拜見者著中曾武者乘馬
數十騎白雲出現見難行法師之前于時難行曰於當山
致難行其志趣定令知見覽而今如御出現者尤以不審





也早示本跡奉仰御本誓可奉崇敬之旨致祈誓之時託其
返事我在世之昔稟武畧主石上神室垂跡之今住金山利
愚鈍之衆生被示我是弥陀北山垂跡現大菩薩濟度
衆生伊奈波河庭之神勅弘本地之德各讚
如是示不見難行能美神勅弘本地之德各讚
無跡之化記之

- 一 中宮因幡大菩薩 無仁天皇皇子五十瓊敷入彦命
- 一本宮峯權現 無仁天皇皇后日葉酢媛命
- 一 金山本跡藥師如來化身也 因幡大菩薩之御母也
- 一 下宮金山大明神 大菩薩御息所津熨媛命也
- 一 大行事 大同二年九月

更本跡虚空藏化身也

- 一 后大明神 大菩薩更衣兒御前母儀也

本跡十一面觀世音化身也

- 一 大神門天皇 大菩薩御乳父毛里權守

本跡金剛男大日如來也 以上三所王子是也

- 一 兒御前 大菩薩御子平田合戰之時於彼所誕生神子也

- 一 高山大明神 大菩薩更衣后御前也

本跡釋迦如來化身也

- 一 野宮八幡 大菩薩御子平田合戰之時於彼所誕生神子也

本地毘沙門天生化身也

- 一 祖曾路宮 大菩薩御子平田合戰之時於彼所誕生神子也

本地大聖文珠師利菩薩化身也

- 一 峯本 大菩薩御子平田合戰之時於彼所誕生神子也

當山守護神也

一物社大明神

自因幡國令供奉五百余騎兵也
權現實二類神也

本地各千手千眼自在王菩薩化身也

- 一難行法師如斯奉行顯面以各造御室殿奉崇之後弥勤菩薩我也失搔消樣畢彼難行法師令篋住致勤行於巖岨
- 一者其後号難行岩屋也將亦於當所厚見者欽明天皇御宇改縣号称厚見郡如元當社御敷地也就中當社施威光給支弟四十四代帝天武天皇被襲大友皇子御坐去九禁引籠大和
- 一國吉野山奥清見原御坐自其而經廻伊賀御勢着美濃國不破郡本野上郡也御坐塞不破関被召當并尾張國等軍兵有御舍戰之時於南宮法性大菩薩社檀有御祈誓討勝今度合戰而遂御本意者可奉崇當國一宮之由御祈念之處神託而示為我一人者不可叶因幡大菩薩大行事市阜雄大明神可然勇士也尤被語申告示天皇向當山御坐有御祈誓者因位之昔

受持武略之道更于今無御忘忽現鎬矢自當山鳴鎬声指西飛行被聞食御憑敷而固不破関相待之處大友皇子輝奕率數千騎之勢攻不破関悉亡号長澤於谷河大馬多之馳埋彼谷河水成血流出之間自其以來彼河者号黑血河也大友皇子於近江國被誅參不破内裡天皇知御本意有御即位於濃州者奉号野上天皇吉野山而奉称清見原天皇行幸京洛之後天武天皇申之然後南宮法性大菩薩奉崇當國一宮因幡大菩薩奉崇同三宮以御敷地厚見被定御神額景行天皇十三年二月十六日以御亡御日限被建立六所神宮寺從每年二月十六日始而被行三十講自三月三日至于同日勤四日八講當郡内平田東西庄以下御卿令勤八頭致奉幣也加之被定置八人八乙女五人神樂男日々夜々御神樂不断奉致再拜者也一天下靈驗無雙神也然者諸人運步預利生事是祈

也在世昔者主石上神宝垂跡合者本武畧之道奉守朝家神明也
斯神本縁之事因国史引勘之処所見如此次神位事元慶四年奉授從四位下之由国史之文戴而炳焉也其右授位所見未
勘得之但天下諸神奉加階事自天慶迄于建治八箇度也
相計彼宣下之數可知此明神之階級哉後經朝卿干收四位後深草院御宇康
元年中彼昏當社額之時忘一位因幡大菩薩之由奉戴之
然者為極位正位神之條勿論歟天皇御宇奉戴之
右竹帛所戴管穴現如斯初勘錄如件前宿禰
大副兼内藏權頭下部兼前宿禰前宿禰
右縁起先年紛失之處今歲源子尋平野社預兼前宿禰
所謂進也精誠所極神以無納受給為天下奉平萬民快系子
孫繁昌壽福增進敬白山縣

後土御門院

今上皇帝 御宸翰也 文明壬辰之復申請于二條大閣所下賜不

當社之光輝實國家萬代之至宝也

右當社自往古之本縁起紛失之間後光嚴院御宇延文四年尋平

野社彼調置之本漸及滅故為後代重申世尊寺行高

以令書寫奉寄進者也

文明四年 壬辰三月十六日

後奈良院

持是院權大僧都法印大和尚妙椿

當社正一位之額自宝殿尋出其背書曰文永四年丁

卯姑洗四日辛卯奉施入之

從三位藤 朝臣經朝書之雖然縁起康元年中

云其相違有之知

文明八年 丙申姑洗四日

持是院從三位法印妙椿奉之

岐阜御殿跡ハ山の下^ノ鞆屋町の裏にあり慶長五年大久保石見守
 行殿とていふ同七年東照宮の地とありて^ノ時當御殿
 へ入らせりいぬす元和元年大坂御退治畢て御凱陣の
 時七月廿二日台徳院君に當所より^ノ北御殿に入
 らず^ノ今ハ御殿ひく惣構の
 たりこの^ノ北御屋敷の南の^ノ大久保石見守の陣屋のりて慶長五年の冬より十四年の
 間にありて石見守と御改易ありてのり岡田将監御
 郡代とてありて^ノ元和五己未年の秋
 尾張御領地とありて藤田民力支配ありて石見
 守将監等^ノの陣屋の地に新殿と御營建ありて名
 古屋御代々の君上岐阜にありて^ノ御止宿遊ハ
 今^ノ新殿も今ハ廢つて南御屋敷の^ノ

伊東直之進上
 書に岐阜奉行
 天明五年
 初而被仰付
 ありて訂正

官舎とてありて代官支配ありて元禄八年六
 月より岐阜奉行仰付られ町内御山等の所務とつて
 櫻井基佐宅跡ハ西材木町にありて宗祇の門人にて連歌と
 和歌とありて宗祇と中りて^ノ師弟と絶ちて
 和歌の家集一巻ありて群書類聚の^ノに
 印行ありて京都にてありて^ノ地とありて^ノ一
 首もなり。蜂屋兵庫宅跡ハ蜂屋町にありて兵庫ハ^ノ
 織田家に仕へのり豊臣太閤の臣とありて林甚右門宅跡甚
 右横町にありて今ハ普賢寺とありて春日丹後守宅墟ハ
 中新里にありて齋藤玄蕃宅跡ハ葦屋町の南にありて水造左
 衛門具康宅墟ハ矢野横町の西にありて木造町とて今蓮
 生寺の境内にありて氏家常陸公入道十全宅跡ハ中矢野町の
 西にありて今ハ法華寺とありて百々越前守安輝宅跡ハ木造

らしむる謀る永祿三年の冬、事ある一国の禪院皆誅
して寺院を退き、大山の瑞泉寺に會集し、書を妙心寺に呈
て別傳の奸邪とて、其籍を削らしむるを、既に妙心寺
第一座の籍とのとれ、畢る義竜理に伏して和を講じ、諸僧で
其寺に還らしむる別傳又ひ、奸謀の首を、諸僧再ひ退散
する於此、義竜京都に訴へ、將軍家も請ひ、朝廷に奏し、傳灯寺
を、五山の列に、紫衣を下り、別傳を、永祿四年四月
義竜が所請の、勅許、却て將軍家御教書、草紙、
り、ひ、五山の列に、義竜病死と依之、綸旨御教書、下り、
別傳の望を、破り、諸禪徒、
が、各々の寺に、還住せしむる際、織田信長、稻葉山を攻む、
に、傳灯寺に、放火の賊と、隠し置、齋藤氏の家人、寺
を、圍で、賊を、誅し、別傳難と、して、出奔せし、一宗の、惡と、して

乞食の、終る、
の、早田村の、條に、
末寺に、
長良の、崇福寺の、末寺に、
と号し、同宗に、
納の、光国寺の、末寺に、
宗山城守、治の、萬福寺の、末寺に、
り、青岩山と、号し、曹洞宗、尾張の、三洲の、正眼寺の、
末寺に、
浄土宗、鎮西、京都、知恩院の、末寺に、
尾張の、甚目寺の、鐘に、
取、
當寺に、寄附、

已銘に尾州甚目寺推鐘諸行無常是生滅法生滅々已
寂滅為樂長祿二年戊子九月十七日大檀那竹田久阿弥と
云々有り。法圓寺の稻葉社の下北裏にあり。遍照山と号す
同宗京都智恩院の末寺なり。誓願寺の稻葉社の下
北側にあり。大雄山と号す。浄土宗西山派西莊村立政寺の
末寺なり。誓安寺の同所の南側にあり。松尾山と号す。同宗
西莊村立政寺の末寺なり。善澄寺の同所にあり。普照山と
号す。同宗西莊村立政寺の末寺なり。合政寺の同所にあり。
同宗西莊村立政寺の末寺なり。極樂寺の同所北側にあり。
法東山と号す。同宗西莊村立政寺の末寺なり。大泉寺の
白木町の東にあり。本龍山と号す。同宗西莊村立政寺の末寺
なり。安樂寺の稻葉社の下北側にあり。同宗西莊村立
政寺の末寺なり。善行寺の下北側にあり。大切山舍利院

と号す。浄土真宗京都東本願寺の直末なり。濃陽志畧に寺僧
傳云慶長中住僧某受東照神祖電遇賜松舍利三顆唐磁
香爐及制札慶長五年関原之役東軍奏捷時神祖賜名大切
山云々有り。當寺に信長公の賜ひし證状有り。其文左
の如し。貴坊儀者為清和天皇之直傳多田満中之末孫依
為當国之旧跡今度断宗追院之障聊無之候間可被心易
候其外郡中五十年以來之新地坊庄共當胡十五日引未月迄
ニ從其方悉可令追拂候若及異儀敵對候者急度可令成
敗者也依而下知如件 二月八日 信長 濃州厚見郡井之
口村善行寺。即得寺の本造町にありて同宗京都東本願寺
直末なり。淨安寺の蜂屋横町の北にありて同宗京都東本願寺
なり。普賢寺の甚右横町にありて同宗京都東本願寺直末なり。法蓮
寺の西材木町の西にありて同宗京都東本願寺直末なり。蓮生寺の

法蓮寺

本造町よりておきし宗同し直末あり。真光寺は西材木町の西の
よりりて同し宗名古屋の聖徳寺の末寺なり。法華寺は夫
島町の西にあり。啓運山と号し日蓮宗京都本國寺の末寺
なり。尾張の清洲よりて織田家の祈願所なり。松安
永祿年中信長公の地よりて八棟あり。堂は建馬松安
土よりりて住僧日陽あり。清洲よりて此の寺は
通ひ所なり。日陽よりて清洲よりて建馬寺の寺は名古屋の
よりて法華寺町の法華寺なり。妙照寺は華屋町の疎に
あり。三光山と号し同し宗京都妙顯寺の末寺なり。常在寺
は同所よりりて鷲林山と号し同し宗京都妙覺寺の末寺なり。
此寺に齋藤道三一色義竜父子の画像あり。賤帳手巻に常
在寺の什物齋藤道三の書状あり。此の寺は左の寺に雖末寺
兼此の寺之次之住僧の家末よりて那古屋に性還付し種

の池よりりて山あり。ありて如快妙なり。自今如後切なり。中
寺は深き廿段進なり。聊ありて此の寺は四月七日
佐々集人佐々道三美濃名細記に、當寺は聖徳二明徳
元年庚午土岐家之長臣齋藤利藤建立開山の僧日軌二世の
日審よりり山号は額ハ一條禪閣の御筆なり。又
文珠村にありて文珠の古像ありて寺にありて。現正寺は
中矢島町の西にありて興隆山と号し京都妙顯寺の末寺に
あり。長照寺は同所にありて法光山と号し同し宗京都妙顯寺
の末寺に阿弥陀堂、稲葉社の下ありて。天正のち信長公信
濃に善光寺如來よりて遷り堂閣と建立ありて。薨去の
後豊臣太閤如來を京都に遷り大仏殿ありて安置せり。其
一、當所の善光寺は堂宇は廢頽し其跡に小堂一字とな
り。如來堂よりて善光寺大門よりりて大佛に安置道の如

當地に引うりて薄絹を織出し諸国に引うりて
非絹とて岐阜の名産より近う紗綾縮緬綾錦に
も織出して京都大阪より一から藤原明衡の新猿
樂記に美濃八丈とて疾訓往來に尾張八丈とて
八丈絹と長絹と六丈絹と短絹長絹古書に云々美濃
尾張の名産とて尾張の海西郡の村々又其隣邑伊勢の長
島にありて織り出され今世八丈氏姓の所の
邊に往りて其織工が中山の所より引うりて織
り出され美濃絹は往古より伊勢の産物とて
當国より出せる所あり伊勢尾張より引うりての名産
とて美濃絹の所とて
るハ續日本紀に養老三年五月辛亥制定諸国貢調短絹狹
絶鹿狹絹美濃狹絶之法各長六丈濶一尺九寸天平十二年正

國大曆貞和
年十月廿七日
の記東宮御
元服畢
以下内藏寮
請奏先例
美濃國廣
絹解文

其外延喜式等に
あつては多し

月甲午賜渤海郡王美濃絶三十疋副使已珍蒙美濃絶二十疋
とて廣絹とて新撰六帖に為家朝臣山とて
みのりひろきぬとて美濃絹の所とて
とて山とて東山道の所とて南都東大寺所藏
の古證文天曆四年十月廿日都維那法師の文書に美濃国銭九
十壹貫七百六文調絹廿八疋二丈二尺五寸とて美濃国
物語の藤原君の所と大臣の位とて美濃国多
たり人のおられたる衣笠とて美濃国多
りみりかしてこれに美濃絹の所とて
て美濃絹の所とて油ハ胡麻在菜種綿
實等にも美濃絹の所とて稱す破魔弓破
子板葛蒲刀檜笠指定袋とのわう竹皮細工のしれ等
てつりて新ハ天正年中より當所に新坐とて

附天
美濃國
下河原
中河原
天文
下實
國大

と置く船木商賣と免許ありて其の證状左の
當所船木之事如前々為十二人之者可令賣買并下川下
船木一切令停止訖新規諸役等免除之事不可有相違者也
天正九年極月十九日 織田信忠判 今度船木商賣之儀拾
二人は 佐付判 下川に 殿様は 上木千 木五拾宛於
末代進上りし高買 船木判 一切あり有るは
孫一拾二人之内に之れ入由心得終 左の拾三人は 天正
九年十二月廿二日 船木拾二人は 氏菅七郎判 市ハ濃陽徇
行記に南口ハ御園に市立あり 今ハ加納領ナリ西口ハ
岩倉町トシ市立あり 今ハ加納領トシ早田村の北口ハ
中河原トシ市立あり此三所に市神榎あり 中河原にあり
天文年中の洪水に流るる 岐阜城懐古木
下實聞 殘墨荒隍積水河運願 後主若悲何雲霞偏

訝降幡下山谷猶餘折戦多臺廢千門空石礎 夜曲百曲
藤蘿晚風忽起松濤湧絶似昔年奏凱歌 日本詩選
りるたり 再興

今泉村ハ岐阜の屬邑にして町の南のつらき 尾張御領 千三十石
八斗一升 濃陽志畧に千五十六石 布屋町七軒町 大田町ハ岐阜
の町の町家なり 美江寺ハ天台宗に大日山觀昌院ト号と本
尊十一面觀音ハ本伊賀國名張郡坐光寺にあり 養老元年
六月本景郡十六條村に 加藍と建立し 勤操和尚の開山
と 勅願所ハ 當國守堂朝臣麻呂のけり 彼朝臣
中納言定家郷舟木の山莊にあり 日毎に此寺に 左五衛
尉則重トシ一人に命じて 堂宇の修補と加 十六條一村と
寺領に寄附あり 十六條と船木社美江寺村ト号ハ
美濃守源國房莊園と寄附 其裔孫土岐氏代々當國に

在りて當寺と崇敬し土岐頼貞齊田村と寄進と在京大夫
持益八文明二年二月當寺より剃髮し法名と道堅と号す梅
華無盡藏に明應五稔本堂土普化縁序美濃州本巢郡
船木郷十六條大田山船積寺江号美伏惟觀自在菩薩壇者往意
正法明如來或曰法性如來也為化度群生現三十三身而影向微
塵刹土寔一切功德慈眼觀視衆生開拔苦之花結與樂之
果龔以當山之本尊十一面薩埵者彼分身之一而善光精舍之
弥陀同弘其化件之威神力詳見干縁起故不及枚挙
りてそのより修造土普の文なり
今正二年和田佐渡守に命じて美江寺の諸堂を修補し塔頭
廿四院を再興せしむるのち天文十年和田將監の家
滅亡し他国の賊徒美江寺に屯り本集居永祿末中義龍
の退治し寺を又破壊すたつた信張公の討め本

尊との地はしり堂宇と建立して舊の寺号をとり本巢
郡美江寺驛の舊地今ハ権現の社地とされ藤川記に美江
寺といふ所のより五十町ありとありて今もその地は
本尊ハ十一面觀音斗帳ののちにもすゆてはらり
らるる人ハ和名ありとありて今もその地は
縁起のよりありて今もその地は
仏人よりえられとありて今もその地は
斗帳のたも三十三年自一處に開帳りて今もその地は
年二月晦日寺の門前より車二軸とありて今もその地は
獅子ありとありて今もその地は
そのより修造土普の文なり

つり六八八千石と領す。その妹直高の加藤遠江守光泰の
室なり。直盛の嫡男丹後守直重二万石と領す。其子監物直興
伊予茶の城主故り。領知と没収を。加賀に預け。のち
召出さる。七千石とす。直盛の二男美作守直家。播磨の
山野の領主の祖。三男藏人直頼。伊豫の小松の領主の祖。て
亦に諸侯に列り。繁栄す。當村ハ梅天神ハ一柳氏の産土
神なり。小野族小松族等関東往還の村。使に。奉幣あり。
その社の東南の陸田と監物誕生の地。其宅墟。西本坊の
地なり。慶長七年なり。加藤遠江守光泰ハ今泉村の
橋尻より。四々。小内と名の。信長秀吉たり。て軍功
あり。天正の中末の。大垣に在城。のち甲斐の谷村林あり。
其二十四万石と領す。文禄二癸巳年朝鮮に。率と法号
曹源院との位牌ハ七津寺に。あり。左二門尉真泰の。

方縣郡黒野村の茶。其の。一柳監物直盛の才。法泉坊と
光泰養育。加藤圖書と名つ。今泉に。名細記。今
方縣郡黒野村の茶。其の。一柳監物直盛の才。法泉坊と

小熊村ハ今泉の東南に。あり。岐阜の属邑。同御領百四十石。斗郷

高附ハ一斗。大寶寺ハ臨濟山。あり。臨濟宗京都妙心寺ハ末

寺ハ。明應三年齋藤新四郎利国建立。十二月上日開堂。あり。

悟溪和尚と開基。濃州志畧に。興宗。船田前記に。明應甲寅

冬。持是院公性僧都。叙大宝精刹於州之吉田村。延瑞龍悟溪

禪師。為開山。馬時。崩。崩。土。開堂之儀。僧都預於。九。昧。草。將

行視之。大風。俄起。而。雲。蜚。颺。西。尾。直。教。即。馬。曰。今日之行不可也。僧都領

之。次。早。欲。更。行。天。氣。弥。惡。竟。不。行。也。石。丸。利。光。竊。聞。其。行。欲。道。害

之。而。不。能。也。因。自。悔。怒。其。夕。起。兵。於。海。田。欲。襲。加。納。伐。之。云。後

年。あり。ハ。一。斗。あり。郡。上。郡。吉。田。村。に。あり。後。年。

あのかにうらうら梅藏無尽藏にのりて當寺の鐘銘に濃洲路郡
上郡下田郷吉田村臨濟山大宝寺僧堂前鐘銘叙龍興惟閑山祖廼悟
溪大和尚伏以宋檀迦持是院權少僧都今茲甲寅之秋云々
の甲寅ハ明應三年の境内四至各四町織田信孝池田輝政中
納言秀信大久保右見守等の證状あり書画一覽に泰秀名ハ宗
韓興宗宗松法嗣後住濃洲文室寺天文中寂ス。塔
頭二區ありて瑞峯院長慶菴とツ。慈恩寺ハ景德山と
シ。臨濟宗粟野村大龍寺の末寺なり。東木坊ハ淨土
真宗東派本山の懸所にて倍に東御堂と稱す寺号なく境
内あり主宮寺願誓寺とツ。寺勢とツ。觸下の末寺
七拾余ヶ寺あり慶長年中御旗本坪内氏新加納に建立し
今の前田あり。淨土寺ハ田中山とツ。淨土
真宗東派の内陣一家京都本山の直末あり。地藏堂ハ町内に

り信長公の附葉栗郡小熊村よりうらうらて小熊の地藏と稱
古仏ありと小熊村と名つけられい地藏ありの氏あり
古屋敷新田ハ岐阜の属邑に町東北山の下にあり岐阜城主の家士
等が屋敷の跡と畑に墾せられ地ありあり尾張
御領十四町二反十八歩の地あり。五十六町。五合。十町。五町。
忠節村ハ岐阜の属邑にして町の西のつれりり濃陽志畧に里老傳
云昔織田右丞居岐阜征伐四方以死干事者子孫養育干此名
由忠節町是古代旌表之意乃岐阜西口也と云えたり。同御
中領百七十七石八斗六升六合。中渡廢跡ありハ長良川の筋
岐阜山の西北と東あり西へあり早田村乃裏と通り崇福寺
領の畧と繞りあり。中渡りり。岐阜通路の舟渡り
あり。洪水にて中渡り川口の所と押われ鷺山村正木村

柳秘 此皆井郷に築居 葦手の城のおきく子
孫継て居住 家老の天文のころ断絶
長井豊後守も城主たり 天文のころ断絶
廢城とす 関ヶ原御陣のち廢長六年
慶長創業録 十七年七月朔日濃川加納の城
東照宮岐阜の
普請始り 是岐阜の城を改め 或ハ方縣郡黒野の城
城と廢 當城とす 信長ハ八郎貞昌長篠合戦の戦
奥平美作守信昌 信長の一字と賜り 信昌と改め
に賜ひ 上野の国宮寄 藩翰譜に慶長六年二月
に加増とす 十萬石と領地 美濃國加納の城とす
當家天下のあり 萬石と領地 室ハ東照宮の御女
龜姫君とす 寛永二乙丑年五月廿七日 信昌元和元年乙卯
三月十四日 卒法名と久昌院殿前作州大守恭雲
道安大禪定と号す 其墓ハ久昌山盛徳寺にあり

松平根津守忠昌 忠政ハ美作守信昌の三男母ハ龜
姫君 東照宮の御 松平の御稱号 治徳院殿の
御諱の一字と賜ひ 信昌の隠居領加納十萬
石と相續す 兄大膳大夫家昌 從四位下侍從幼名九
賜一字ハ信昌の家督とす 下野の守都宮の
城主たり 忠昌ハ忠七郎と稱す 菅沼大膳
定廣の養子となり 小大膳定利と名の 三河國
設楽郡田峯の龍の城に住り 三河國二葉松に
あり 上野の吉井にあり 慶長七年父
の隠居領とす 當城に 同十九年十月二
日卒 年二十 法号光國院雄山宗英駿府政事
録 慶長十九年十月六日 大夜終 御陣 松平根津守自
去朔日俄腹痛翌日二日午刻死去之由上野本

泰平年口に
永祿三年正月
十八日龜姫居
生御母今川
治大輔養女
實八閨口刑ア

齋藤帶刀左五門尉利永の建立あり齋藤富樫
井口御家の輩ハ一菅神と氏神と崇敬し梅鉢と
家の紋としられしなり齋藤の一族等ハ其
地ハ必天神の社と勸請し其の社ハ其の
所あり。盛徳寺ハ町ありしなり久昌山と
号し臨濟宗京都妙心寺の派下なり其の
増瑞寺と申しし久平家の菩提所ありしを慶長
八年ハ其の寺野國より其の地其の寺ハ元和三年三
月十四日信昌卒去りし其の寺ハ當寺に葬り及
室加納殿の墓ありし其の地ハ其の寺ハ
應三甲午年其の寺号ハ其の寺ハ信昌の
法名ハ其の寺号ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ
廟祭名録ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ

少輔氏廣リ女
築山殿と稱セ
トアリ

神祖御長女奥平大膳大夫信昌室寛永二年五月廿五日
加納盛徳寺にありしなり。久運寺ハ曹洞宗の古刹ナ
信因果物語に濃洲加納久運寺にありし無き鶏ニ
来り十日ハ其の兒島平大夫来りし其の寺ハ其の寺ハ
にハ其の雞ハ何方より来りし其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ
セハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ
其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ
平大夫ハ其の先ハ其の雞ニ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ
其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ其の寺ハ
前城主安藤家の菩提寺ナリ。寺ハ當城
主永井家の菩提所ナリ。往來松ハ町の西南
にあり其の城主松平丹波守光永朝臣ハ其の寺ハ

してけうの松と名つりては子隠丹波守光熙
宝永の末山城の淀は、
陪従の人、
のけうの松と名つりては、
靈元院法皇、
名木、
うゝ類題に、
下名、
まゝ巻、
に濃州加納有一株、
討、
六癸酉年三四月之頃、
原朝臣光永遊觀之日、
名、
往來、
武、

參議右近江權中將藤原朝臣有
勅旅野之下川日
光山之時始有詠六條參議右近衛權中將源朝臣亦
有和歌有森林氏某者予未面然使水田長隣需
詩歌於予辭不免因漫賦之與之
頭、
冷泉正二位中納言藤原為經卿 蒼重三面
旧髯叟幾歲盤回秋後春想像濃州加納地送迎
昔日往來人武者小路從二位中納言藤原實蔭
つ、
下、
奇六十首と云ふびのせり
前假名序、
水田長隣
實蔭、
六の松室曆の、
今、
植、
若木、
詩七篇和
俗稱七左エ
加納の人
のうもれ
改

六条村ハ下加納の南西より加納領千五百石七斗

三升 船戸村ハ六条の内なり

清村ハ六条の西より郡村記ハ清水村と

志のり 同領 五百石五斗

下川手村ハ加納の南にりり 同領 千百三十九

石三斗五升 河手 古城ハ土岐大膳大夫頼康

當郡長木本の城にりり 其の地狭くして要害

ありり 城とすりり 頼康ハ土岐系國ノ伊予守頼清の子にして從四位

下大膳大夫刑ノ少輔 左近將監 屬尊氏 康永元

年伯父頼遠生害之後依尊氏余向信州菅

生寺又向豫州一征之軍功若干也之莫之為管領職

美濃尾張伊勢三國守護濃州厚見郡河手城築居之

文和二年六月 後光嚴院 帝因山名乱自江州坂本臣濃

州無井臨幸自無井至小嶋臨幸此時從干義詮而頼

康供奉小嶋頭宮無井頭宮頼康奉之而造營同九月

還幸時又供奉也延文二年四月晦日尊氏逝去時剃髮

号善忠嘉慶元卯年十二月廿五日卒七十歳法号建徳寺

節叟善忠居士菩提所河手正法寺頼康建立永祿四

年放火断絶 池田郡白檜村の条に常

樂記の文と 子大膳大夫

康行 實ハ一族攝斐出羽守頼雄の子少く頼康の養

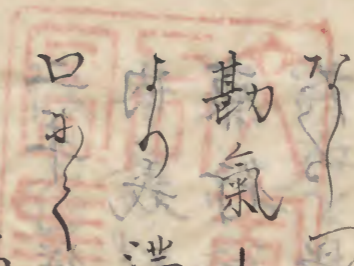
子少く 近国三ヶ国の守護と補 河手に在城

と分脈系譜に大膳大夫康行本名義行刑ノ太輔

とりり 南方紀傳に嘉慶元年十二月廿五日美濃国

土岐大膳大夫入道頼康朝臣卒去七十歳息刑ノ太輔

により謀せりしに從弟の宮内少輔詮直は康
行の知母なるを先詮直逆意りしを
將軍がみつに討つ事延引せし康行詮直は
味林満貞と必合戦ありしに満貞は
勤氣もし尾張の守護とありしに
けの満貞尾張の守護とありしに
口より満貞と合戦におりし康行は人数を
して満貞と合戦におりし將軍は
ひく土岐左京大夫頼益に命じて康行を征せ
元中六年北朝康應元年二月美濃国土岐の康行退
治其を軍勢ありしに土岐頼益は
頼益は土岐頼益に命じて康行を征せ



職と流はく應永廿一年甲午四月四日
卒その子左京大夫持益幼名法師九のち右馬允美濃守從四位下將軍義持の
應永廿一年足利持氏に關東管領職
となししに時右馬允持益將軍の使として關東に
下向す同二十一年家督とつれ美濃の守護と
河手の城主南方紀傳に應永廿一年九
月伊勢の国司北畠満雅卿御即位の
てむりしに關左馬の助ありしに關一黨神戸奉
国府鹿伏免等そのり大和伊賀志摩に軍兵
先北畠後康京都一味より後康の城坂内
とせしに後康の城坂内の小路の館に

りて国司満雅つとく木造河射
賀多氣大河内坂内玉丸城とす
将雅俊木造の城とす
城とす
北伊勢の関神戸峯国府鹿伏兔等
拜野の城とす
左京大夫持益と大将
保大膳大夫康政仁木右馬の
院等とす
木造の城とす
造の城との
に
とす
河射賀の城とす
城堅固

国司先垂水鳥屋尾方穂朴木等と岩田川雲出川
につ
天花寺曾原船江波瀬岩内大淀玉丸等の城と
河射賀の城
高山
意
夜
城北
天花
寺の城あり東に出城ニッ南と地獄谷
京勢
大将持益
四方の水の手と
水乏して漸く渴にの
櫓の前に馬を
馬を
此城を世俗白米の城と
名細記の土

坂飯土岐美濃守成頼と云々三月應仁元年五月
月より細川勝元と山名宗全と合戦と成頼美濃
の兵八千余騎を帥し宗全を討ち軍功あり
文明九年諸国の大名各京と去りて国より
より成頼も兵を引て美濃に居りて應
仁記應仁別記應仁畧記等に以てえたり
より在国より上洛する
應四年隱居池田郡小寺村安国寺にて剃髮
宗安と号す同六年四月三日方縣郡城田より
率て法号瑞竜寺国文宗安居士と号す美濃
守政房の一字をとりて左京大夫頼綱の義政
將軍の一字をとりて政房の字をとりて美伊
法師と云ふ藤川記に美伊法師と云ふ

濃守源成頼の息男生年九歳より回雪の袖と云
物ありと云ふ事ありて骨と云ふ事あり長
保のころ京三條女院の清和の試樂に御堂の閑白
の長男宇治閑十一年の春めく後王と云ふ事あり
右大臣九代ありて納蘇利と云ふ事あり
ゆきいじり人の病を治す事あり
いとわづらひたる人あり少年の人のえ骨と云ふ
人を感歎せし事あり異曲同工と云ふ事ありや
十二日猿樂あり彦松と云ふ事あり
てのり美伊法師と云ふ事あり袖と云ふ事あり
猿樂にかゝる事あり
明應四年に河手船田に在城と云ふ事あり

後記に新府主致啓

去歲九月五日成頼於池田安國寺剪其髮名宗安以國傳屬政務云

起義兵自革手進馬於加納刑部少輔揖斐某兵

少輔大素某右京亮原氏頼直越後前司齋藤宗珍右

工門多治見貞藤掃部助伊藤某皆扈從之云々齋藤

利安基朝等馳馬向因幡神祠神祠之後強長良河與

賊軍相距一里余利綱利實亦自墨俣遂及木田江

州大守佐々木政高進師于弥高山嶺併淺井氏三

田村氏兩軍未省陣于搗訃十四日明應丙辰五月庚申信

都泪齋藤利為長門前司典明齋藤駿州大守基

廣藤兵工尉利因將文率同盟之師軍于長良諸岳排

陣於早沙者不知其幾千力數也次早因幡絶類奉

燧凱哥三疊以示水鷄兩軍也時久無雨河水不費

舟行馳躰兵万余人直截流齋之村山崎前鋒基

廣為殿木鷄之師見山燈進師於城田之西南南則鷺

山利綱利實陣之東則鶴山利安基朝云々陣之西則

江兵暴露平野禮都及利為氏于鷺山之東北基廣

利因等又比其比與富家際漏河交箭云々

石丸利光と誅伐せしむるの陣備へたり 永正

十四年家事と嫡子政頼ゆつて城田の城に

ゆつて同十六年己卯又天文四年六月十八日

十六年五十四歳法号承隆寺海雲宗壽居士

之子美濃守政頼石丸村頼純と改むハ永正十四

年家督とつて美濃の守護となりて河手

城小居の政頼聰明なり家臣長井新九郎政利

のりて齊藤山城より奸佞残害の氣象なりと云々

昵近とゆつて政利云々天文のり

条保しむゆとありてせむゆなり。○飛田守明神社、
上苗部にあり。延喜神名式に厚見郡比奈守
神社とあり。是美濃神名記に従五位下比奈守
明神とあり。官社なり。○八幡宮、下苗部に
あり。○加納の城主松平飛騨守忠隆修造のち大
社とあり。○縣明神社、下苗部にあり。延
喜神名式に厚見郡苗部神社とあり。美濃神
名記に従五位下苗部明神とあり。○堀太
郎在子門。秀重の祖父掃屋大夫當所。住り齋
藤秀童に屬し。軍功あり。朱具足と賜ふ。子
六之助初掃部太と齋藤とあり。住り秀

重六之助の子。信長公につく。のちまゝ。近江の
坂田郡のちあり。五千石を領し。當城に居る。のち
秀吉公に屬し。五千石を加賜。のち一萬石を領し。
秀重の子。父太郎秀政のち侍從にけり。のち
織田豊臣の両公につく。軍功あり。越前
国三ノ木石を領し。天正十八年卒。三十八才と
あり。子堀侍從秀治左門督にけり。當所あり。
のち秀吉公につく。慶長三年侍從に任じ。越
後一國四十五萬石を領し。高田の城にあり。居る。
三十一歳に卒去。秀治の才。美作守親良
始名弥もよのちのちあり。慶長十二年一萬三
千石を領し。加増あり。三萬石を領し。
下野の鳥山の城にあり。諸に列あり。

件宰薨子細并綸言趣等載宣旨狀而前別當
本僧都口辭退寺務之間無其沙汰空以去
往因茲其妨逐日弥益以件勝尔内号光
国私領鶉郷之別府偏所押領也昔古今
官符宣旨等之條寧無違勅之科哉但光国
前日陳狀你件苗部庄往古寺領也西至勝
亦初以未可有宰薨事也者如陳申者若
是光国不知案内之然鶉郷司等口所押
妨歟早任永久宣旨被遣官使停止件西
至勝尔宰薨者權中納言藤原朝臣實行
宣奉勅詔遣官使任延久三年官符令紀定
西堀者国宜承知依宣行之大治元年六月
廿日大史小槻宿祢判少辨藤原朝臣判

○所注載西堀
高標也而前出
羽守源朝臣光
国以

割限限置
之日々々

檢註言上東大寺領美濃国管苗部庄西堀子
細事西堀内相論田畠素在家等田畠十八
町叁佰步田伍町捌貳拾步口見作畠十二
町伍貳佰捌拾步見作八町八貳步荒三町七
畝百八拾步素叁佰貳拾本大二百木
中百廿木在家十
貳家右去六月廿日宣旨你東大寺領美濃
国管厚見郡苗部庄西堀宜遣官使任延久三年
官符令紀定去延久三年六月廿日官符社領鶉
郷西地寄進故二位家領平田庄加納之割限西
至之日限折勝尔畢背件勝尔所押妨苗部
庄西堀田畠十八町余也仍任宣旨狀国使并
寺家使相共加實檢如舊令紀定畢仍信上如
件大治元年八月廿日庄司散位中原成季国

三日月
佐波村
牛頭天王社
中鶉
彫物
同領
二百七十四石八

使大判官代藤原盛道官使左史生安部重之
牛頭天王社、中鶉、彫物、同領二百七十四石八

佐波村、鶉の西南にあり、同領二百七十四石八

中佐波村、下佐波村、坂牧村、佐波の村あり

◎稱蓮寺、浄土真宗東派本山直末、同領

四百二十石九斗八升、同領

高河原村、次木の西にあり、同領二百七十四石八

日置江村、高河原の南にあり、同領二百七十四石八

十石二斗九升七合、大服村、中島村、日置江の

御茶屋新田、日置江の西にあり、同領

同領六百九十四石二斗三合

高桑村、次木の南にあり、分脈系譜の萱津

左京大夫頼益の条に濃州高桑とあり、同領

鳥屋村、加納の西北にあり、本庄鳥屋村

一郡村記に市橋庄あり、同領二百七十四石八

七十五石六斗六升七合、観音寺村、二股村

赤屋村、荒屋村、中村、島田村、鎰屋村、千手堂村、鳥屋の、頼朝卿富士の牧狩の着到、美濃国の御家人戸屋とあり

宇佐村、鳥屋の西にありて本庄宇佐村と
同領五百四十三石六斗六合 額額源吾守康
盛安、盛安の本庄宇佐村の人とて、平治物語の頼朝遠流の条に、
平治物語の頼朝遠流の条に、
池殿もよ、思召平家の人々も、
源吾盛安、
大津もよ、馬鞍尋常、

立改

建久三年三月十三日、應て盛安鎌倉、
頼朝對面、
多記、
美濃国上中村、
物語の京師本駿河本、
尾張野宮の女、
朝、
家、
依奉、
西、
錢并、
内惣、

年百四十石六斗七升五合出
雲村ハ西庄の野
寺ハ文和三年の勅願に東智通和尚の
境内に開山の櫻の指木あり。のひる俗に桜の
寺あり。小池あり。池中の蛙の鳴き
声と封じし。今より。寺領御朱印五十石。東照宮の清制札又下馬
札等と免許あり。織田真經永祿十
一年戊辰秋七月廿五日公使和田惟政不破河
内守光治村井貞勝島田秀満迎義昭并越
州義昭集居下濃州西社立正寺。公上太刀
鎧馬具青錢千貫於義昭御衆相從諸臣謀

使義昭歸京。瓜村ハ西庄の西にあり。西庄瓜村と加
納領四百二十一石八斗二升五合
今嶺村ハ瓜村の西にあり。同領三百七十四石
四斗五升。今峯左馬頭氏光。今瓜系譜に
土岐彈正少弼頼遠の子。土岐系圖に
穗保修理亮氏光。改保。於細目討死。兄に
今峯駿河守光政。弟に今峯右馬頭氏
直輔。氏光の。太平記に。仁木石京
大夫義長ハ三年の間に大敵に取内。伊勢
の長野の城に。知行の。兵糧乏。一族即從

關東に生れしに住せり多田満仲の子大和守
從四位下源頼親の末孫に世に當國の
住人なりその子石川某法名家と絶く
に住せりその子空兵衛光信法名養徳信長
島に住せり善提所京都妙心寺の子空兵衛光政
法名養徳信長
寺の中法名養徳信長
法名玄桂秀吉公に四代鏡島の城主なりその子
伊豆守貞政の子孫まゝ貞政の才土佐守
勝政の子孫に今御旗本にして關東に
下奉仕し光政の孫伊賀守光重法名宗鏡豊臣家につよその
子紀伊守光元法名宗鏡秀吉につよその
江戶河家鏡島家の先祖なり百葦根田
當城齊藤帶刀左工門にありて土岐代々の
長臣安藤氏の居城に伊賀守守就がし

乙津寺

乙津寺は同所なり瑞甲山
北号の臨濟宗京都妙心寺の派下なり其の
真言宗に修行基法師の開基の古刹なり其の
廢絶なり其の中古再興なり其の宗は
の開基石川駿河守光清大同年中空海法師の死に末に鏡
とてなり四十二歳の自像と彫り堂中に安
置すなり其の郷名を鏡島と呼び法師又
一木の杖を庭上に置き其の末に生じて繁茂
す一株の梅樹とて其の花八重に生じて其を
何とてなり其の末枯槁なり其の根實は學世
生ひて數百年のつたなり其の事なり其の宗祇法
師の寺に生じて其の香がゆば異味し匂
蘭梅の寺と名をせり其の俗に梅の寺と名をせり

まゝの母盛徳院殿の墓忠昌の子飛騨守忠
隆法号實相院の墓りつてその葬埋の地なり
○瑞龍寺只岐阜山の南の山にありて金宝
山と号す臨濟宗悟溪派ありて齋藤越前
守利藤入道妙椿の君主王岐成頼の菩提
の地なり大台廢寺と真一應仁元年の寺
と建立す悟溪和尚より開基なり美濃記に
長井豊
後守利隆入道悟溪和尚と稱教りて明應六年
丁巳四月天台旧蹟にありて再興す瑞竜寺小成
頼の法號なりとの繪像今にあり塔頭八寺
ありて雲龍院瑞微院南善院鶴栖院卧雲院
龍震院息耕院瑞雲院ありての開善院
利藤入道の位牌所なりありて本院より本坊と輪番
持し開悟溪派の田舎本寺と稱す山内の景

地より北に江村北海の濃北紀遊に瑞竜寺の南
殿堂規制及距山近遠酷肖乎洛下竜安寺但
欠一鴛鴦池耳とありて慶長五年中納
言糸巻信石田が逆徒より籠城ありて
関東の軍勢岐阜を攻めし時三成の部
将河瀬左馬助大西善左衛門等瑞竜寺山に
ありて若と設きてありて瑞竜寺の山に
のりてり鹽尻に岐阜の瑞竜寺の山に
焼く石とありて焼く座あり居ありあり
土前たはし石をもちて石ありあり
源敬公ありて四方清眺望あり
其節塩煮の菜ありて八月十五夜あり

名月や... 書画一覽... 信叔名紹... 後任濃州瑞龍寺... 必... 必... 必...

上川手村、土加納の南東にあり川手と川運

其の... 長良川... 運上... 必... 必... 必...

吾妻鏡の建曆二年九月廿一日... 諸国...

津料... 手等ノ事可被止由... 且朱及御沙汰之

處其事為得分所... 地頭依申子細今日如元

可致沙汰之由... 面被仰下... 必... 必... 必...

同領... 五百六十七石... 八升... 安藤...

領... 土州... 東... 諸... 同領... 七百九石

九斗五升... 堀川... 堀村... 上評... 評の南

東の... 尾張美濃の国... 必... 必... 必...

天正の中... 南... 葉栗郡の北

多... 美濃... 郡堀... 必... 必... 必...

細畑村... 領下の東に... 同領... 七百五十

五石五斗八升八合... 同領... 七百五十

切通村... 細畑の東に... 長木庄... 同

領六百九十四石八升四合... 長森城... 村の

文治の... 渋谷の... 金玉光... 必... 必... 必...

土政伯... 守頼... 真の子... 必... 必... 必...

年少... 頼遠... 五位下左... 将監... 當國の守護

土岐郡... 大富... 太平記

の曆應元年... 青野合戦... 余に將軍... の先

將軍春日少將顯信出羽奥州の勢六萬余騎
と率して相山に敵に御方を見らるる千
騎を一騎とらりしとやも猶當御りたるは況
況其の所を土岐と桃井に少を機を各れと
前に忍るるを敵に退く心あり
此もいふえりりり付の声と率多御り
りれ千余騎の一手に敵を大勢の中に颯と
も又半時計に戦つてつひにぬけし勢を
此もいふ三百余騎の一手に相の勢を
百余騎の一手に東で副將軍春日少將の
ひく入るる二万余騎の中へ入て東へ追靡
南へももりり汗馬の足と休る太刀の鐔
音止地なりとや其声なきの戦合も千騎

が一騎にたりりり引つて互に氣を二刃
の先途身戦つて敵雲霞の
迷斯くも相もこれに取籠りし
て勢もつた氣も屈しりれは七百余騎の勢
もつるる二十三騎にりりり土岐は左の目
の下より右の口腹鼻より
のりり長森の城へ引つて
記の康永元年九月二日持明院上皇伏見
殿へ行幸の條に松明とて還御り
夜ははりりりりり御車東洞院とのり
に五條邊をりりりり土岐彈
正少將頼遠に階堂下野判官行春今地殿の
馬場より笠懸射して芝居の大酒花時刻と

あつたに夜つけてつりまゝが無端樋口東洞院
の辻に御幸ゆきとまり合はるる召次御前
走散て何れぞ狼籍と下りしを咄り
下野判官行春の事を言て御幸也り心え
て自馬飛下り傍に畏る土岐弾正少弼頼
遠の御幸も不知けり身許に比時
世も不慈心の中に行跡を馬とけ居
て此浴中にも頼遠の行跡を馬とけ居
覺ぬものぞと叫ぶる馬鹿者ぞ
に奴原蟄目負せそりて倉前駐
御隨身馳散て声々に如何ある田舎人な
れに加様は狼籍とい行跡を院の行幸に
て頼遠を呼ぶる頼遠酔狂の氣や

を聞きしを聞いてつりまゝが無端樋口東洞院
の辻に御幸ゆきとまり合はるる召次御前
走散て何れぞ狼籍と下りしを咄り
下野判官行春の事を言て御幸也り心え
て自馬飛下り傍に畏る土岐弾正少弼頼
遠の御幸も不知けり身許に比時
世も不慈心の中に行跡を馬とけ居
て此浴中にも頼遠の行跡を馬とけ居
覺ぬものぞと叫ぶる馬鹿者ぞ
に奴原蟄目負せそりて倉前駐
御隨身馳散て声々に如何ある田舎人な
れに加様は狼籍とい行跡を院の行幸に
て頼遠を呼ぶる頼遠酔狂の氣や

家督を継ぐ云々といふ事あり 祇園執行日記
貞和六年七月廿六日濃州御敵責来近江坂
山中宿邊之間洛中騷動鎌倉殿執事等可前
祭向由風聞今夜先佐渡判官入道祭向廿八日
今晚寅刻鎌倉左馬頭殿并執事高武州祭向
濃州云々八月十八日鎌倉左馬頭殿義詮自濃州御上
洛云々執事武州其勢不知其数生捕大将周勢殿
岐乗輿佐々木六角判官江州守護預召具上洛云々
七日土岐周清同舍弟左工門大夫入道於樋口河
原六波羅地藏堂焼野今夜戌刻被討了と云々
南方紀傳に曆應三年秋七月新田義助信濃国
に趣く九月一日義助退治の事あり土岐頼明入道
周齋房を大将として信濃国に攻め同十八日

卧雲一 日件録に
土岐宮内少輔自
殺其婦人勇髪
改衣詠和哥二首
曰わんわんわん
したるあはれ
うき世のうら
らさくら油
せと保の衣の
ろいんんんん
うららららら
せはもい皆可
感人也ト云

義助美濃国へ落ちり伊勢国に經て吉野
の宮に來りてありて軍功ありて
頼遠歿せりともあり土岐の惣領ありて當城に
居り貞和五年正月五日四条殿に戦死と云
のち土岐宮内少輔詮直兵庫頭頼忠の弟伊豫守
直氏の二男に加茂郡肥
田瀬に往り肥田瀬
宮内少輔も稱も
方紀傳に應永六年十月廿一日大内義弘左京坂
大夫
にたみく野心のききえり云々廿九日諸軍
堀の城ときむ土岐宮内少輔詮直池田周防守
大内にころし尾張の国より美濃の国に
土岐美濃守頼益らむと云詮直といふ事あり
長森の城にならむと云りてありて
藏前村ハ切通の東北にありて同領六百七十石

八里あり。八劔大明神社八王子社もに村
中島村ハ茅嶋の南にあり。當郡東南の隅
長森庄あり。同御領二百
九十石一斗五升三合。名古屋ナゴヤ七リあり
境川ハ水源各勢郡各勢村麻アサヒ綜池あり
出てきの郡中とつゝぬきて西に流茅嶋
中島等の地とて西南の安八郡に
見各勢羽栗三郡の堺川又川上に橋あり
河カハ々々。伽藍橋とあり。皂莢川ハ大
河なり。小渠とあり。當郡ハ羽栗
郡のこもひあり。熊野權現社。縣明

神社もに村あり。加納領百八十二石
岩地村ハ藏前の北あり。同領百八十二石
一斗一合。野一色村ハ岩地の北あり。同領百四十三石
六升二合。新田町ハ野一色のあり。同領二百八十
水海道村ハ野一色の東にあり。同領二百八十
二石五斗六升五合。前アサヒ一色村ハ岩地の西にあり。同領二百四
十石八斗三升。北アサヒ一色村ハ前一色の西にあり。同領五百六
十一石一斗三升三合。岩戸村ハ稻葉山の東南のあり。同領
二百八十二石五斗一升五合。觀音洞ハ金華

地に於ては、
延喜神名式美濃神名記
等に、方縣津の神とありて、
古くは、村名も方縣の古津と
いふべし。厚見郡の
日通の所あり。考ふるに、
百三十八石一斗二升九合、
名古屋も、十
里あり。白山社神明社、
鉦子峯の林麓にあり。佛五春日、
一面観音の像あり。不動毘沙門の
二像を安置とむ。歴然と
伽藍あり。

一ヶ所、
民いふ、つらつらあり。小島峯、
にあり。孤峯空、
樹木繁茂あり。
土仏、
巨岩屹立如立、
下俯長川、
其岩中有洞、
可照看、
杖岩、
くめ、
一往古海船、
四方に、

